三菱レイヨングループ CSR報告書

MITSUBISHI RAYON GROUP CSR REPORT

2009

三菱レイヨン

MITSUBISHI RAYON CO.,LTD.

Best Quality for a Better

三菱レイヨングループは『最高の質』を追求し、
人々の豊かな未来に貢献します。

経営の基本姿勢

1. CSR経営
2. 人を活かす経営
3. 事業ポートフォリオ経営

株主・投資家

お客様

Life

調達・取引先

三菱レイヨン

地域社会

政府・自治体

従業員

【CSR憲章】

1 私たちは法令遵守を徹底し、企業倫理憲章に基づき行動します

企業が健全な事業活動を行うためには、法と高い企業倫理に従って行動しなければなりません。私たちは、法令を遵守し、企業倫理憲章を定め、公明正大な自由競争に基づく事業活動を行います。

2 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します

私たちは安全・環境への取り組みが企業存立と事業活動にとって最重要課題と認識し、安全に関する法令、環境保護に関する法令を遵守すると共に、安全と環境に配慮した事業活動を行います。

3 私たちは最高の質を目指す商品・サービスを提供します

私たちは、三菱レイヨングループの企業理念を実践し、お客様の視点に立った真に満足していただける、優れた商品と、細やかなサービスを提供いたします。

4 私たちは社会との共生に努めます

私たちは、事業活動に係わる顧客・消費者、地域社会、株主・投資家、取引先などのステークホルダーとの関係を重視し、友好的且つ適正な関係の維持、発展に努めます。

5 私たちは一人ひとりの従業員を大切にします

私たちは、従業員はかけがえのない財産であるとの認識のもと、三菱レイヨングループで働く全ての人々の人権を尊重し、安全な職場環境を構築し、能力の開発・活用のための機会を提供します。

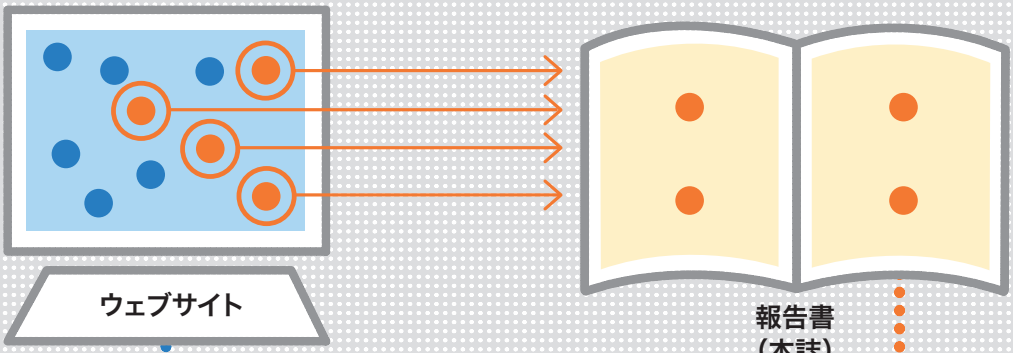
（2007年制定）

全てのステークホルダーの方々に三菱レイヨングループのCSRにかかわる取り組みをご理解いただけるように、「冊子」と「ウェブサイト」を使い効果的な報告を目指します。

報告の考え方

ー報告メディアの使い分けについてー

「冊子」と「ウェブサイト」を使った、効果的な報告を目指しています。



ウェブサイト

アカウンタビリティ・ツールとして

- 環境データの詳細
- 冊子発行後の最新情報

(2009年9月開設)

三菱レイヨングループのコーポレートウェブサイト内に、CSRコンテンツを開設しました。
CSRに対する社会の関心の高まりとともに、私たちが報告すべき内容は年々増えています。ウェブサイトでは、当社のCSR活動を網羅的に報告しています。

URL http://www.mrc.co.jp/csr/

冊子の編集方針

コミュニケーション・ツールとして

- 重要性の高いテーマを掲載
- ステークホルダーとのコミュニケーション・ツールとして活用

冊子の編集方針

冊子では、三菱レイヨングループにとって特に重要と思われる取り組みを中心に、CSR憲章別の構成で報告しています。2009年度版の編集にあたっては、各CSR憲章のテーマ毎に重視する活動の成果と進捗状況を報告しています。冊子は三菱レイヨンのCSR活動を理解していただけるように、地域社会の方々や従業員をはじめとしたステークホルダーとのコミュニケーション・ツールとして活用します。

対象期間

2008年度
（原則として2008年4月から2009年3月末まで）

対象範囲

三菱レイヨングループ

CSR報告書2008でいただいた第三者意見（神戸大学大学院　國部 克彦先生より）

●**環境対応目標と事業目標の連携を、廃棄物削減による収益向上や環境配慮製品の売上拡大なども含めて、どのように展開するかが課題。**

→当社グループは2009年8月発表の第6次中期経営計画を見直した“New Design MRC”の中で、次期コア事業として「環境関連製品・技術」を据えています。今後は環境対応目標と事業目標の連携を計り、事業活動を進めていきます。また当社グループは、“地球環境”をキーワードに、既存製品の拡大、新たな環境素材、先端材料の開発に取り組んでいきます。

●**従業員対応を含む社会活動面では、定性的でも良いので活動の目標を立案し、PDCAのマネジメントサイクルを確立することが次のステップとして重要。**

→社会活動面において、2008年度は「従業員へのCSR啓発活動」を重点課題とし、主要事業所で「CSR報告書を読む会」などを開催しました（P.13）。今後は新入社員、各職層別での開催など、CSR啓発活動の継続・拡大において、PDCAのマネジメントサイクルを意識した展開をしていきます。

●**今後は、社員とのダイアローグを通じて、社員の声が外部にも届くような工夫や、CSR報告書を媒介として、さまざまな関係者とダイアローグを実施することも有効。**

→本誌P.13で紹介している「CSR報告書を読む会」では、従業員から当社のCSR活動に対するさまざまな意見が寄せられました。CSR委員会事務局ではこれらの従業員の声を集約し、それぞれの活動に反映させ、社会に貢献する形で社外に届けていきます。また、当社ウェブサイト内に新たに開設したCSRコンテンツを通じ、さまざまなステークホルダーとのコミュニケーションを図っていきます。

参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン（2007年版）」
GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2006（第3版）」

発行時期

今回冊子版発行：2009年10月
ウェブサイト掲載予定：2009年10月末
次回冊子版発行予定：2010年9月

CONTENTS

経営理念 …… 1
CSR憲章 …… 2
編集方針 …… 3
目次 …… 4
トップメッセージ …… 5
三菱レイヨングループの概要 …… 7
三菱レイヨングループの製品紹介
　あなたの身近にある三菱レイヨングループ製品 …… 9
　環境にやさしい製品・技術 …… 11

1 私たちは法令遵守を徹底し、企業倫理憲章に基づき行動します
○「CSR報告書を読む会」を開催 …… 13
○海外リスクマネジメント強化 …… 14
　コーポレートガバナンス …… 15
　コンプライアンス
　リスクマネジメント

2 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します
○安全活動の推進 …… 16
○環境保全活動の推進
　環境に関する法令遵守状況
　安全・防災への取り組み …… 17
　確認とフォローの実施 …… 18
　環境負荷低減への取り組み …… 19
　地球温暖化防止への取り組み …… 20

3 私たちは最高の質を目指す商品・サービスを提供します
○CSR調達活動の推進 …… 21
　製品安全・品質管理のための対応 …… 22

4 私たちは社会との共生に努めます
○次世代育成教育活動 …… 23
　文化・芸術活動への取り組み
　海外グループ会社の取り組み …… 24
　地域とのコミュニケーション …… 25
　株主・投資家とのつながり …… 26

5 私たちは一人ひとりの従業員を大切にします
　人材育成 …… 27
　ワーク・ライフ・バランス …… 29
　働きやすい職場のために …… 30
　採用

有識者との対談 …… 31
編集後記 …… 32

※○印は2008年度CSR委員会重点課題

この報告書に関するお問い合せ先
広報・IR室
TEL.03-5495-3100
FAX.03-5495-3184

Top message

真のグローバル企業として世界標準のCSR経営を推進します

世界中のステークホルダーに最高の質を提供

三菱レイヨングループは、「最高の質を追求し、人々の豊かな未来に貢献します」を経営理念に掲げ、お客様に真に満足していただける、優れた製品とサービスの提供に努めています。加えて、企業が存続していくには社会の信任を得なければならないという考えのもと、企業統治、企業倫理、あるいは地域社会や従業員とのかかわり、環境への配慮など、CSRの視点からも最高の質を追求しています。

本年5月に当社は英国の化学会社ルーサイト・インターナショナル・グループ・リミテッド（ルーサイト社）を買収し、三菱レイヨングループに迎え入れました。ルーサイト社は長い歴史を持ち、アクリル樹脂の原料であるMMA（メチルメタクリレート）の世界No.1メーカーです。彼らの経営理念は「Going　Further」というものです。その意味は、自らが行う全てのことに対し、最良を目指してひたむきに取り組み、「さらにその先へ進む」ことによって全ての顧客とステークホルダーに比類なき価値を提供するというものです。すなわちそれぞれの表現は異なりますが、両社の持つ価値観、目指す方向は同じといえます。

ルーサイト社を加えた新たな三菱レイヨングループは、欧米アジアに生産拠点を持ち、全世界に販売拠点が広がる真のグローバル企業となります。それは同時に多様な歴史的、文化的背景を持つ顧客やステークホルダーとかかわり、全世界的視野に立った社会的責任を果たしていくことを意味します。

当社グループは、世界標準のCSR経営を目指して、着実に取り組んでいきます。

一人ひとりが「活きる」社風をつくる

当社グループは「ＣＳＲ経営」の推進において「人を活かす経営」に重点を置いています。その土台となるのは社員です。私たちは三菱レイヨンとルーサイト社が今まで培ってきた企業文化の伝統を受け継ぎながら、価値観や文化を融合し、目標を共有し、新たな三菱レイヨングループを創り上げていきます。

そのために私は、社員一人ひとりが自らの持ち味を発揮し、「活かされる」のではなく主体的に「活きる」社風を醸成させていきたいと思います。そうしてこそ、より強いグローバル企業に成長し、顧客により高いレベルの「質」を提供することができます。そこに企業としての成長があり、継続的な社会への貢献が可能になるのです。

環境関連製品・技術で社会に貢献

環境面では、CO_2削減がすでに京都議定書の第一約束期間に入るなど、国際的な大きな流れの中に身を置いています。事業活動を行うにあたって地球環境問題を考慮し、持続可能な社会の実現に貢献するのは企業の責務です。

当社グループは、「地球環境」をキーワードに次期コア事業を展開していきます。環境関連製品としてすでに事業化している、軽量化に寄与する炭素繊維、水の再生・再利用に役立つ中空糸膜製品等の事業拡大の他、新たな環境素材、先端材料の開発に取り組んでいきます。

一方、製造段階では、地球温暖化防止のため、省エネルギーという視点での取り組みを行っています。また環境負荷低減のため、化学物質排出量の削減等についても目標を設定して取り組んでいます。

このため国内では、4事業所で構成する「地球温暖化対策会議」を立ち上げました。また事業所毎に各工場が使用する蒸気、電気などのエネルギーフロー図を作成し、エネルギーロスを「見える化」しました。これにより余剰エネルギーを工場間で融通し有効利用することが可能になりました。

同時に環境意識を醸成するための各種教育を実施し、環境技術者の育成にも注力しています。また化学物質の排出削減に関しても、MMAトップメーカーの責任として、アクリル樹脂をMMAモノマーに戻すケミカルリサイクルの技術を確立し、工業的規模での実証実験を開始しました。この技術は、使用するエネルギー量やCO_2排出量を大幅に削減するとともに廃棄物も減少するため、循環型社会の形成に役立つものと期待しています。

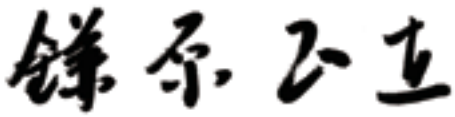
ここでもルーサイト社との相乗効果を発揮し、技術開発をリードしていきます。

三菱レイヨングループのステークホルダーは全世界へと拡大されました。当社グループのCSRは、ステークホルダーとの一体感を持って進めていくことを基本としています。

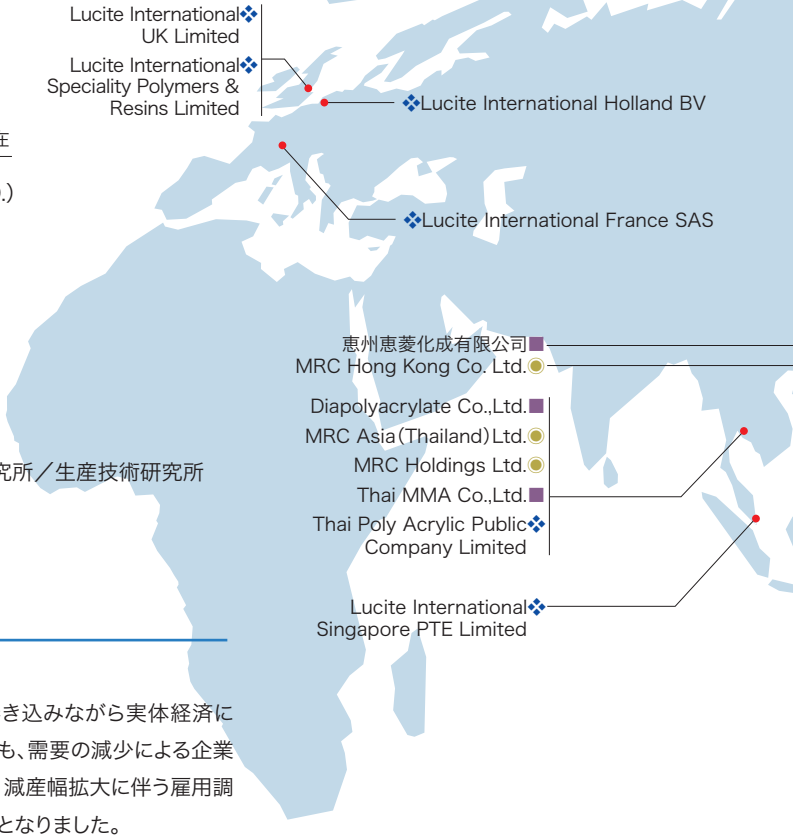
本報告書がその取り組みをご理解いただく一助になるよう願っています。また今後の活動に向け、忌憚のないご意見・ご提案をいただければ幸いです。

2009年9月

代表取締役
取締役社長



私たち三菱レイヨングループは、独自性、優位性、社会性を備えた製品やサービスの提供はもちろん、内部統制やCSRの視点における「最高の質」を追求します。



会社概要

2009年7月1日現在

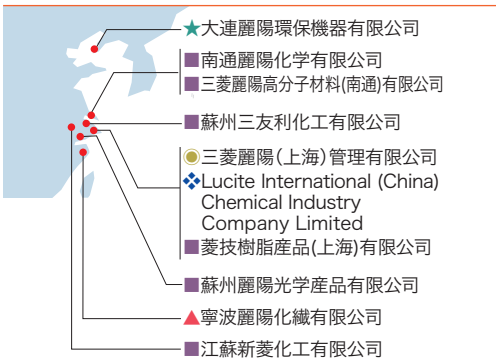
商号	三菱レイヨン株式会社(MITSUBISHI RAYON CO.,LTD.)
本社住所	東京都港区港南一丁目6番41号
創業	1933年8月31日
資本金	532億29百万円
連結子会社	95社(国内30、海外65)
持分法適用関連会社	18社(国内13、海外5)
事業所	大竹事業所／豊橋事業所／富山事業所／横浜事業所
研究所	中央技術研究所／横浜先端技術研究所／豊橋技術研究所／生産技術研究所
支店等	大阪支店／名古屋支店／北陸出張所
従業員数	連結：7,696人(2009年3月31日現在)

2008年度業績(連結)

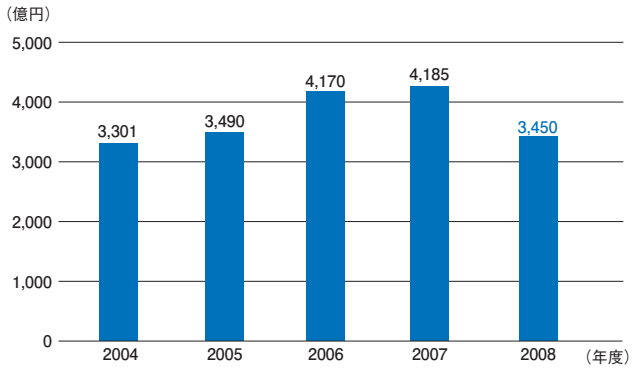
当期の海外経済は、米国を起点とした金融危機が欧州、新興国を巻き込みながら実体経済に本格的に波及し、世界同時不況の様相を強めました。日本経済においても、需要の減少による企業収益への影響は極めて大きく、製造業の設備投資の抑制を招くとともに、減産幅拡大に伴う雇用調整の進行により個人消費がさらに低迷し、景気悪化は一段と深刻なものとなりました。

このような厳しい経営環境の中で、当社グループは、本年度から第6次中期経営計画「グローバルUS→2010」をスタートさせました。「成長へのニューデザイン」を基本コンセプトに、現下の厳しい経済情勢に対して足下を固めつつ、将来の1兆円企業を目指す「フェーズI」と位置付け、経営目標の実現に向けた具体的な施策を推進しました。

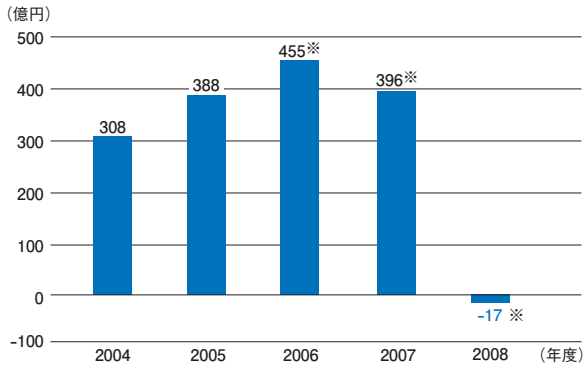
しかしながら、世界的な景気後退による需要低迷の影響は極めて大きく、さらに原燃料価格の乱高下と製品価格の値下げ圧力、急激な円高の進行等も加わり、期後半にかけて収益は急速に悪化しました。また、アクリル繊維事業の抜本的な構造改革や株式相場の下落による投資有価証券評価損の計上に伴う特別損失の影響もあり、当期の連結営業成績は、売上高は3,450億48百万円(前期比17.5%減)と減収を余儀なくされるとともに、76億12百万円の営業損失(前期は375億8百万円の営業利益)、37億58百万円の経常損失(前期は339億68百万円の経常利益)、さらに289億50百万円の多額の当期純損失(前期は142億74百万円の当期純利益)を計上するに至りました。



連結売上高推移



連結営業利益推移

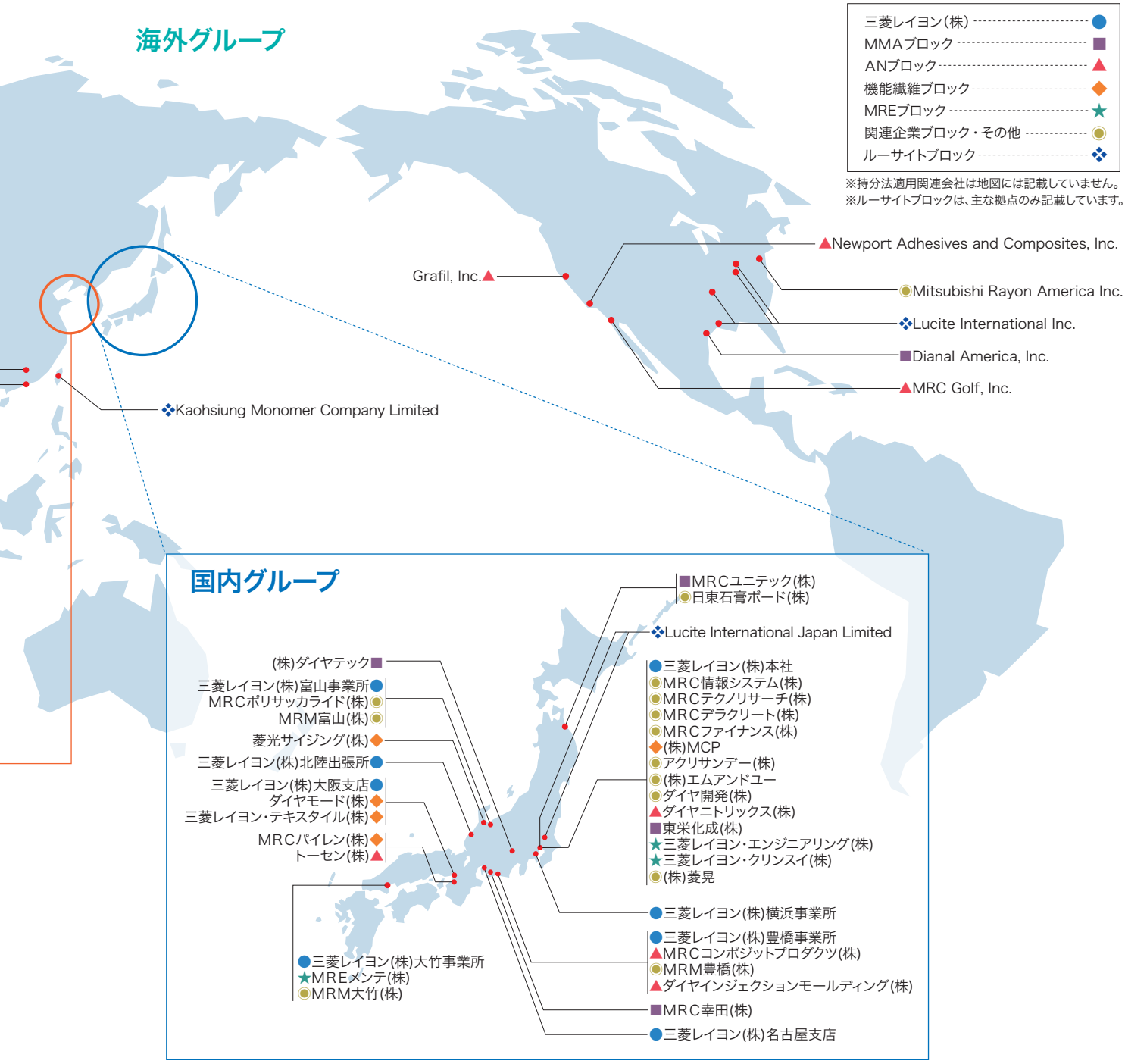


※退職給付会計の数理計算差異償却前の実質ベース

海外グループ

三菱レイヨン(株) ●
MMAブロック ■
ANブロック ▲
機能繊維ブロック ◆
MREブロック ★
関連企業ブロック・その他 ◉
ルーサイトブロック ❖

※持分法適用関連会社は地図には記載していません。
※ルーサイトブロックは、主な拠点のみ記載しています。



TOPICS

英国ルーサイト社の買収　―世界No.1のMMA※メーカーへ―

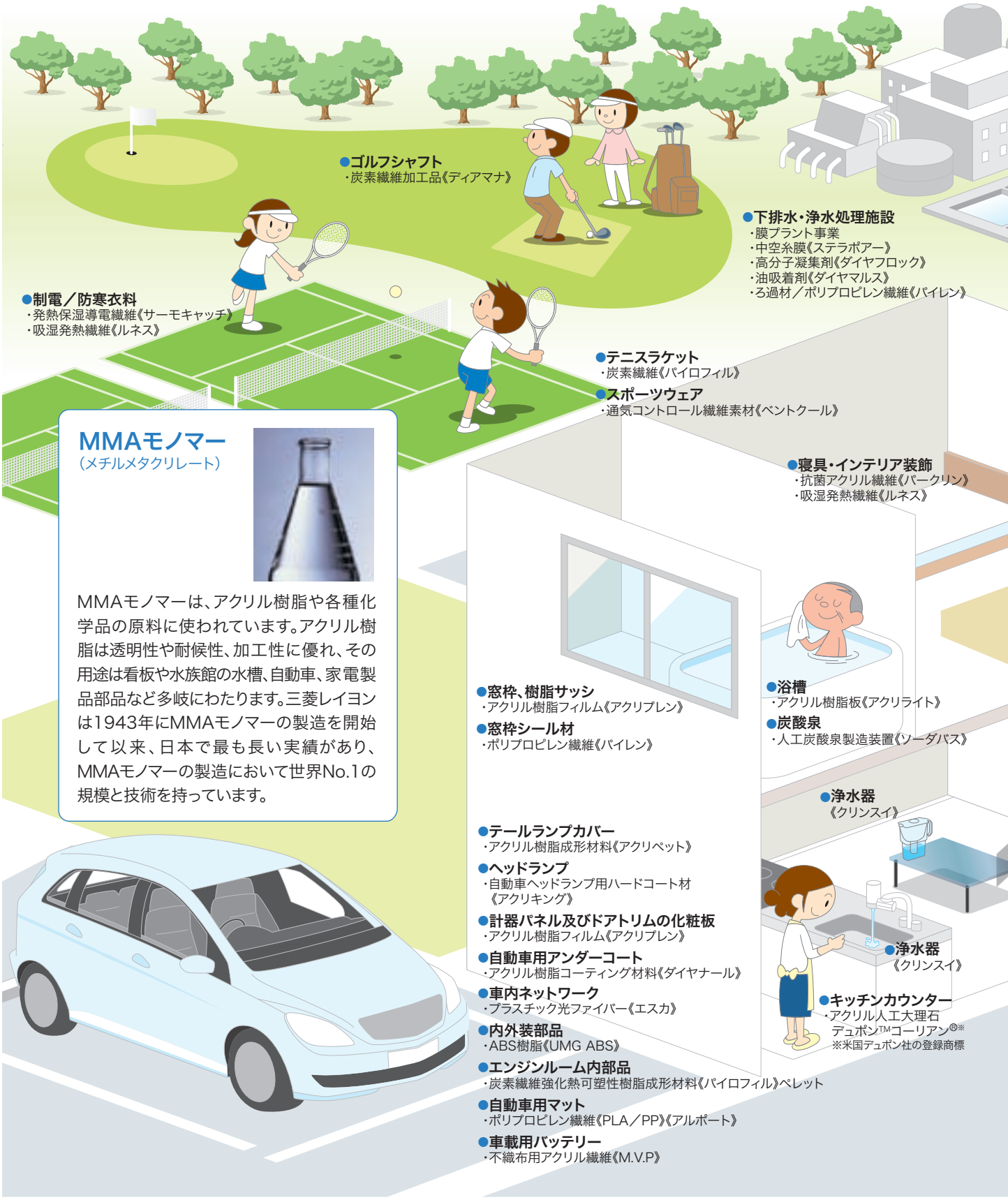
当社は2008年11月に世界最大手のMMAメーカーである英国Lucite International Group Limited(以下ルーサイト社)の買収を決定し、2009年5月末に当社グループ会社としました。この結果、従来の2製法に加えコスト優位性のあるMMA新製法(新エチレン法)を唯一保有し、また欧・米・アジア各エリアに製造・販売拠点を持つ世界最大の生産能力のMMAモノマーメーカーとなりました。この買収によって当社グループは生産、販売、技術、コスト削減などの面で大きなシナジーを実現させ、また需要拡大する新興市場への展開を加速させるなど中期経営計画に沿ったコア事業の成長を実現し、1兆円企業への大きな推進力とします。

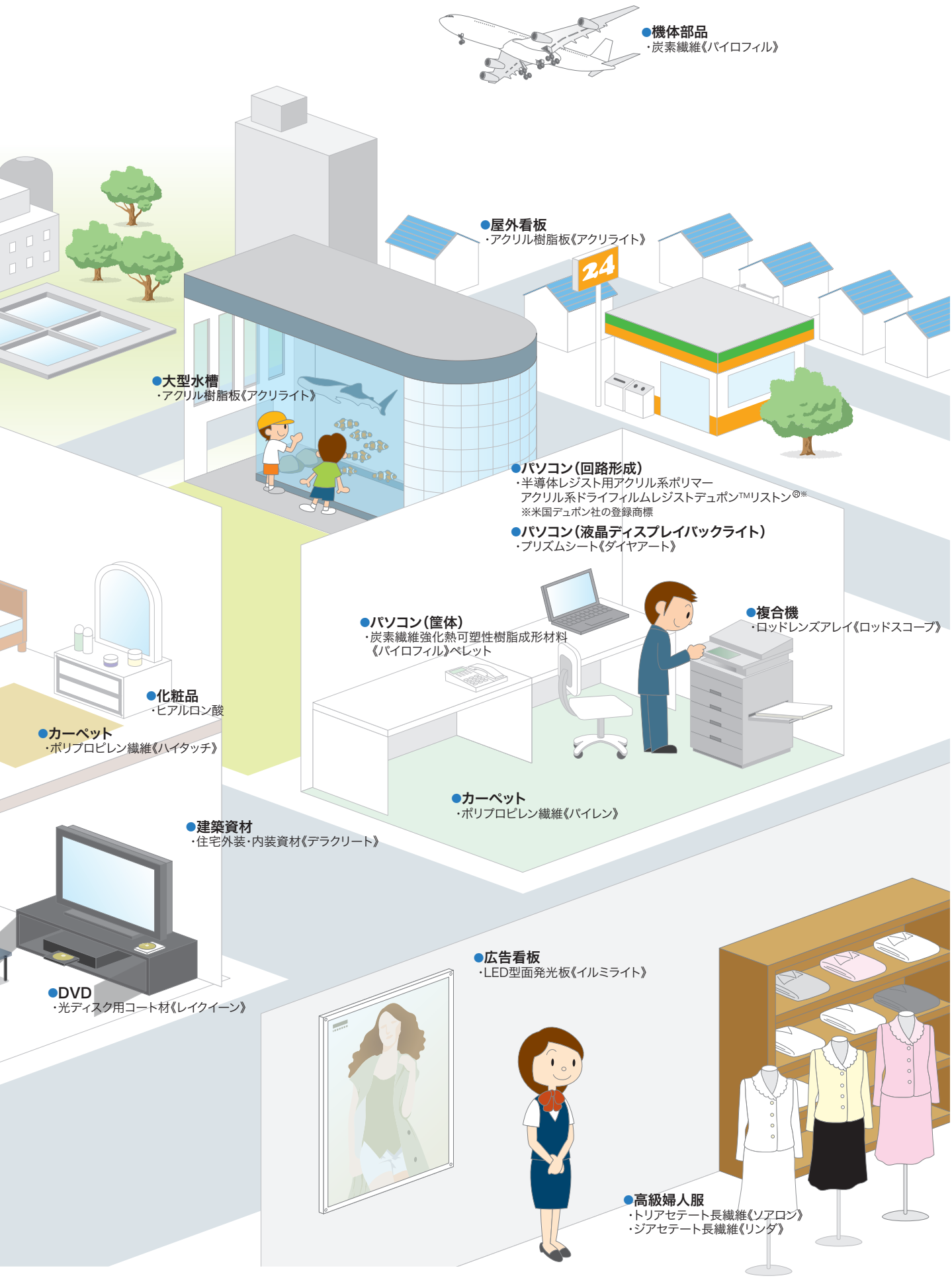
【買収の概要】
対象会社：Lucite International Group Limited(本社：英国)
株式譲渡元：Funds managed by Charterhouse Capital Partners LLP Ineos Investors、ルーサイト社取締役、その他全株主
買収費用総額(概算)：16億USドル
資金調達先：株式会社三菱東京UFJ銀行による融資

※**MMA:**メチルメタクリレート。アクリル樹脂や各種化学品の原料に使われる。

あなたの身近にある三菱レイヨングループ製品

家庭、レジャー、街、オフィスに至る暮らしのあらゆるシーンで、人々の豊かで安全な生活を支えています。

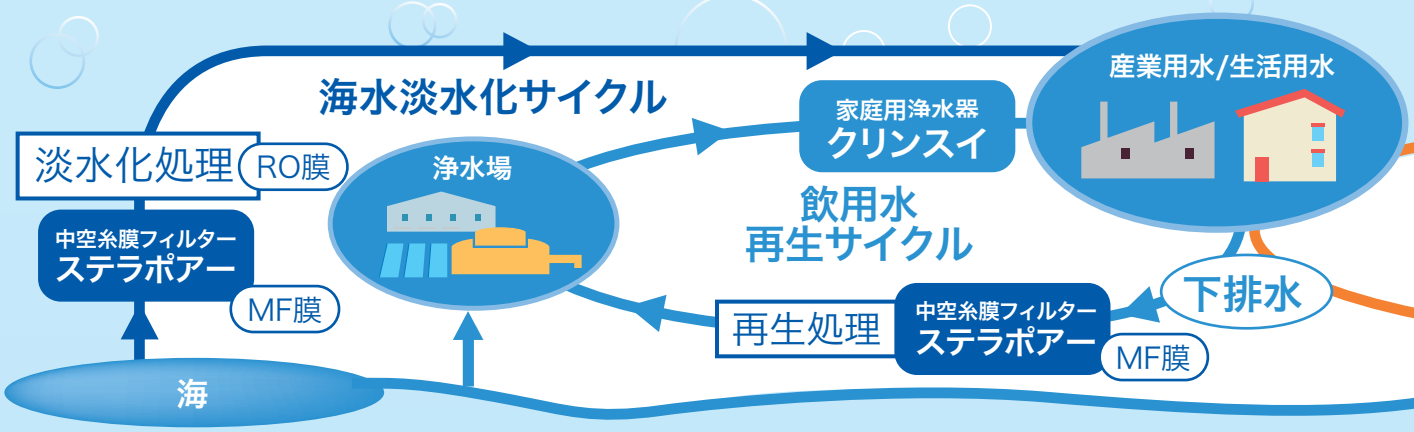



●機体部品
・炭素繊維《パイロフィル》
●屋外看板
・アクリル樹脂板《アクリライト》
24
●大型水槽
・アクリル樹脂板《アクリライト》
●パソコン（回路形成）
・半導体レジスト用アクリル系ポリマー
アクリル系ドライフィルムレジストデュポン™リストン®※
※米国デュポン社の登録商標
●パソコン（液晶ディスプレイバックライト）
・プリズムシート《ダイヤアート》
●パソコン（筐体）
・炭素繊維強化熱可塑性樹脂成形材料
《パイロフィル》ペレット
●複合機
・ロッドレンズアレイ《ロッドスコープ》
●化粧品
・ヒアルロン酸
●カーペット
・ポリプロピレン繊維《ハイタッチ》
●カーペット
・ポリプロピレン繊維《パイレン》
●建築資材
・住宅外装・内装資材《デラクリート》
●DVD
・光ディスク用コート材《レイクイーン》
●広告看板
・LED型面発光板《イルミライト》
●高級婦人服
・トリアセテート長繊維《ソアロン》
・ジアセテート長繊維《リンダ》

環境にやさしい製品・技術

三菱レイヨングループは環境に配慮した製品・技術で地球環境に貢献します。

❶水処理技術



三菱レイヨングループは、MF膜（精密ろ過膜）を用いた浄水・中水用及び下排水処理システム事業を展開しています。

世界的な水不足が懸念されている昨今、水循環の高度化は世界的な課題となっており、膜を使用した下排水処理、海水淡水化技術に大きな期待が寄せられています。

中空糸膜フィルター《ステラポアー》は、工業用水ろ過などの各種水処理の他、海水淡水化処理の前処理工程や、下排水処理で活用されています。

下水処理施設に設置される中空糸膜フィルター《ステラポアー》

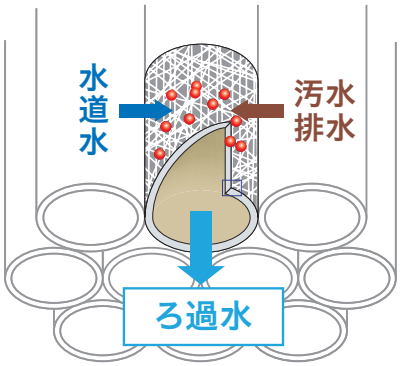
この技術を家庭用浄水器《クリンスイ》シリーズにも活かし、蛇口直結型からポット型まで幅広く展開しています。

その他に下排水処理関連の商品として、高分子凝集剤《ダイヤフロック》などを展開しています。

中空糸膜とは？

浄水フィルターとして使用されているストロー状の中空糸は、壁面に網の目のような微細な孔が空いたろ過膜で、排水や水道水に含まれる粒子や雑菌を除去します。

中空糸膜の水の通り方

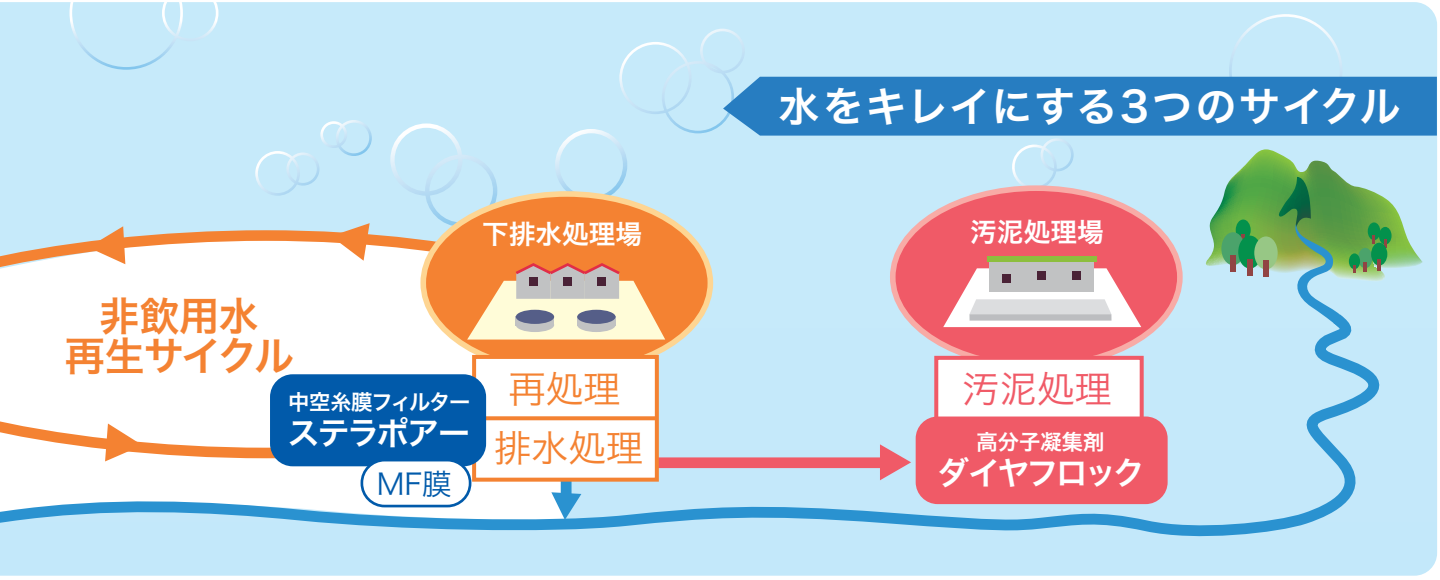


Topics

エコプロダクツ2008に出展

日本最大級の環境展示会であるエコプロダクツ展に出展しました。当社グループは、「きれいな水づくりへの貢献」というテーマで《ステラポアー》、《クリンスイ》、《ダイヤフロック》を、「低炭素社会への貢献」というテーマで炭素繊維、アクリル樹脂のリサイクル技術、LED型面発光板《イルミライト》について紹介しました。

水処理技術などを紹介した当社ブース



②炭素繊維

炭素繊維《パイロフィル》

低炭素社会の実現に向けて、一つの大きな課題であるのが軽量化・低燃費化製品の開発です。

そのための有力素材として注目されているのが、「鉄よりも強く、アルミよりも軽い」といわれる炭素繊維です。その特徴を活かし、車体素材や、大型風力発電翼、高速道路補強材、CNG（圧縮天然ガス）タンクなどの産業用途としても幅広い分野での応用が期待されています。

強い
強度は鉄の10倍
ジュラルミンの12倍

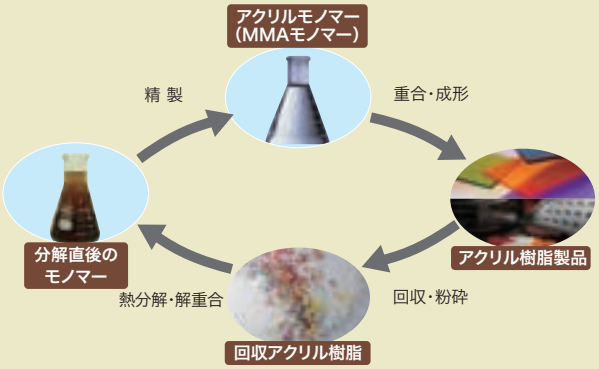
軽い
比重は鉄の1/4
ジュラルミンの2/3

風力発電翼（イメージ写真）

③リサイクル技術

三菱レイヨングループはアクリル樹脂のトップメーカーとして、自社内のみならず、市場から排出される廃アクリル樹脂のケミカルリサイクルを実現するための、工業化技術の確立に向けて取り組んでいます。

アクリル樹脂のケミカルリサイクル



Topics　アクリル樹脂のリサイクル技術が「技術進歩賞」を受賞（2009年6月）
（FSRJ（プラスチックリサイクル化学研究会）総会にて）

本リサイクル技術「高温循環砂を熱媒体にしたアクリル樹脂からのモノマー回収」が、平成20年度「技術進歩賞」を受賞しました。今回の受賞選考に際しては、効率の良い分解装置の開発と大型実証設備（富山事業所内）を完成させ、その実用化に大きく近づいた点が高い評価を受けました。

MMAモノマー、アクリル樹脂のリーディング企業である当社にとって、このリサイクル技術は、MMA合成技術、重合技術と同様に、重要な技術として位置づけられます。

リサイクル設備にかかわった当社従業員

1 私たちは法令遵守を徹底し、企業倫理憲章に基づき行動します

企業が健全な事業活動を行うためには、法と高い企業倫理に従って行動しなければなりません。私たちは、法令を遵守し、企業倫理憲章を定め、公明正大な自由競争に基づく事業活動を行います。

2008年度 重点課題

従業員向け「CSR報告書を読む会」を開催

従業員一人ひとりがCSRの意識を持ち、法令遵守を第一とした行動を取るための手段の一つとして、三菱レイヨングループはCSR報告書を従業員に配布してきました。2008年度には、CSRをより社内に浸透させるために、報告書の配布にとどまらず国内の各事業所で「CSR報告書を読む会」を開催しました。「読む会」は、報告書を編集した「CSR委員会事務局」のメンバーが事業所に赴き、「CSRとは何か」や報告書作成の趣旨について説明しました。ここでは事務局からの説明だけでなく、参加者からもさまざまな質問・意見が寄せられました。

CSR委員会事務局メンバーと事業所の担当者が、今後の活動のあり方について意見を交わした。

参加者の声

CSR活動全般について

- 日頃から、CSR活動の情報をウェブサイト、ノーツ等に掲載してほしい。
- 事業所どうしの情報伝達を活発に行いたい。事業所の“横のつながり”がほしい。
- 労災情報だけではなく、「明るいニュース」も早く伝えて欲しい。
- 現在行っている小集団活動などにCSRの切り口を入れてみてはどうか。
- 事業所ではさまざまな活動が行われているが、それがCSRであるとの認識がない。
- CSRの定義が広すぎて、周知しきれていない。

今後の予定

「読む会」に参加した従業員からは、製造現場にいるからこそ感じる意見や感想が多く寄せられました。また、当社グループのCSR活動における新たな問題点・課題も挙げられました。CSR委員会事務局では、これらの声を活かして問題点の改善に取り組むとともに、より従業員が参加できる、身近に感じることができるCSR活動を目指します。また、今回「読む会」に参加できなかった事業所従業員や、未実施のグループ会社に対しても同様の機会を設ける予定です。

ウェブサイトもご覧ください。
Access http://www.mrc.co.jp/csr/
CSR >三菱レイヨングループのCSR理念・体制
●コーポレートガバナンス
●コンプライアンス
●リスクマネジメント

2008年度 重点課題

海外リスクマネジメント強化

日本、中国、アメリカ、韓国、タイ、インドネシアなど、世界各地の製造・販売拠点の連携を図りながら、世界市場に向けてグローバルな事業運営が求められる中で、コーポレートガバナンスの強化、リスクマネジメントの強化は、経営の健全性確保の観点からますます重要になっています。とりわけ、急速な発展を遂げている中国においては、その対応を急ぐ必要があります。そこで、2007年度から引き続き取り組んでいるCSR委員会重点課題「海外リスクマネジメント強化」への取り組みとして、製造拠点9社、販売会社他2社が集中する中国におけるコーポレート機能の強化（製造拠点運営の指導強化、コンプライアンスの徹底）を目標として掲げ、次の施策を行いました。

❶「三菱麗陽（上海）管理有限公司」を設置

中国生産拠点の事業活動にかかわるリスク管理、ガバナンス機能強化を実現するためのさまざまなコーポレート支援機能の充実を目的として、2008年11月26日付けで三菱麗陽（上海）管理有限公司の営業許可を取得しました。中国グループ会社全体として、より的確なリスク管理を行うとともに、中国事業運営上の諸問題についても、グループとして、より迅速で統一的な対応を目指していきます。

❷中国グループ会社へのリスク監査の実施、リスク管理体制構築の推進

急速な経済発展が進む中国では、法律や制度の整備が急ピッチで進み、企業を取り巻く環境が目まぐるしく変化しています。私たちは、三菱レイヨングループ全体としてリスク管理活動を展開し、そのレベルアップに取り組んでいます。特に変化のスピードの速い中国において、重大リスクの見落としや誤認の危険性を排除し、より客観的なリスク評価を行うために次の施策を実施しました。

【リスク評価のための施策】

1 外部専門家を活用したリスク監査の実施

①事業運営全般に関するリスク監査を行い、網羅的・客観的なリスク評価を行いました。
②安全・環境に関する法律・制度への適合状況について詳細なチェックを行いました。

2 社内専門家を活用した設備安全チェックの実施

①日本国内の基幹工場の知見を最大限に活かす設備安全調査体制を作り、チェックを実施しました。
②安全性評価～対策の仕組みづくりを行い、安全操業・安定生産の基盤づくりを進めました。

3 リスク管理体制の構築と対策の推進

①リスク監査、設備安全チェックの結果を基に、リスク管理推進の体制・仕組みづくりを進めました。
②対応が必要な項目に関して優先順位を設定し、対策の推進とスケジュール化を行いました。

総経理をメンバーとする中国安環品会議を開催し
中国安全環境リスクマネジメント活動について討議した。

中国各社の安全担当者の集合教育を実施した。

1 私たちは法令遵守を徹底し、企業倫理憲章に基づき行動します

●コーポレートガバナンス

監査体制

三菱レイヨングループでは監査役、会計監査人による監査とともに、内部監査を実施する組織として社長直轄の監査室を設置しています。監査役、会計監査人及び監査室は相互の連携を高め、業務運営における改善、向上に努めています。

内部統制

三菱レイヨングループは、「内部統制基本方針」に基づき内部統制システムの整備に取り組んでいます。2008年度は「リスクマネジメント体制」を強化し、信頼性のある財務報告を行うために必要な内部統制システムの構築を推進し、適正に運用しました。

●コンプライアンス

コンプライアンスの推進

三菱レイヨングループは、コンプライアンスは社会から信頼を得て成長していくための必須条件であるとの強い認識のもとに、年２回開催の企業倫理委員会において決定した活動方針に基づき、教育・研修・PR等を実施して徹底を図っています。

2008年度は、今後のグローバル展開の拡大に備え、「EC／EUの独占禁止法と日本企業の対応」をテーマに外部講師を招いて講演会を開催しました。

また、各事業所の製造部署が遵守すべき法令をまとめた「法令ガイダンス」を作成し、その内容についての教育を全事業所において実施しました。

●リスクマネジメント

リスク管理活動

三菱レイヨングループのリスク管理の取り組みは、リスク管理委員会が方針を決定し、グループのリスク管理活動の基本プロセスを統括しています。また有事の際には、同委員会のもとに「危機対策本部」を設置し、指揮命令系統の一元化と迅速な方針の決定により、損害の拡大抑止と早急な復旧に取り組みます。業務執行にかかわる重要リスクについての管理方針・管理方法、並びに想定される事例毎の危機管理対応方法を「リスク管理規則」に定め、この規則に沿った運営を行っています。2008年度は、危機管理対応力の向上のため「リスク管理規則」、「危機対応フローチャート」を2009年３月に改定しました。

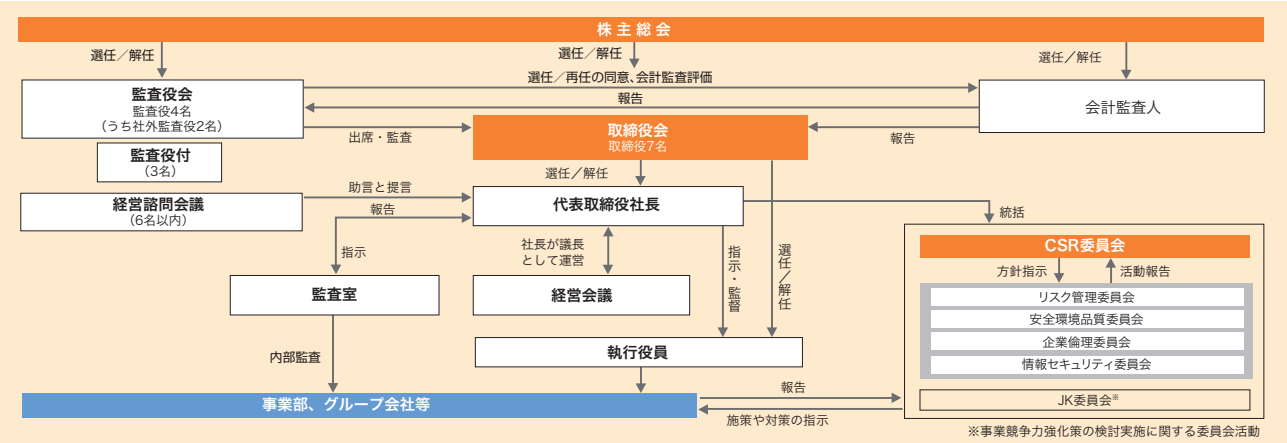
情報セキュリティ

三菱レイヨングループは、「情報セキュリティポリシー」を2004年度に制定し、「情報セキュリティ委員会」を中心に情報セキュリティ強化の活動をしています。2008年度は、全社共通リスク管理活動と連携して、情報システムダウンリスクへの対策強化、各部署の情報資産台帳の見直しやUSBメモリの管理状況の棚卸～管理強化を行い、情報セキュリティ強化～定着を推進しました。各情報へのアクセス権については内部統制（J-SOX）の面から管理強化を実施しました。また、ICカード※1（PIAS※2カードと称す）を活用し、施設や設備機器などフィジカル面からのセキュリティ強化を推進しています。

※1 **ICカード**：情報（データ）の記録や演算をするためにICチップ（集積回路）を組み込んだカードをいう。

※2 **PIAS**：三菱レイヨングループ統一の入退室管理システム（Physical Security Integrated Admission System）

コーポレートガバナンス体制図（2009年6月29日現在）



2 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します

私たちは安全・環境への取り組みが企業存立と事業活動にとって最重要課題と認識し、安全に関する法令、環境保護に関する法令を遵守すると共に、安全と環境に配慮した事業活動を行います。

2008年度 重点課題

第6次中期経営計画（2008～2010年度）のもと、年度毎の目標を設定し、さまざまな活動に取り組んでいます。

安全活動の推進

中期目標

①休業災害と重大事故「0」
②産業事故撲滅
③大規模災害への備え

環境保全活動の推進

中期目標（個別に設定）

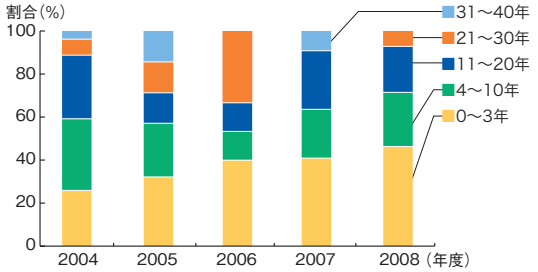
①化学物質排出量の削減
②廃棄物外部埋立量の削減
③地球温暖化防止対策の推進

2008年度の活動結果概要

安全活動 →P.17,18

三菱レイヨングループにおける労働災害の総件数は、前年度とほぼ同数でした。MRC国内事業所において、経験の浅い人が被災する労働災害が多く発生したことから、経験の浅い人への教育と安全に対する感性の醸成が急務と認識し、対応を進めています。事故については、重点課題として漏洩・流出事故への対策を実施してきましたが、未だ撲滅に至っていません。今後も継続して対策を進めていきます。

経験年数別事業所内労災発生件数推移



環境保全活動 →P.19,20

2008年度は、生産量減少の影響が大きい年となりました。今後も個別に設定した中期目標の達成に向け、活動を継続していきます。

今後の課題

ルーサイト社の買収を機に、安全の確保、環境保全などの活動についても、よりグローバルに展開するため、目標の達成に向けた活動等の見直しを行っていきます。

●環境に関する法令遵守状況●●

漏洩事故

2008年10月に三菱レイヨン富山事業所において、有機溶剤を含む水が公共水域に流出する事故がありました。環境への影響は見られなかったものの、2年続いて同じ事業所で漏洩・流出事故を起したことを大きく受け止めています。三菱レイヨングループでは、2004年度以降、さまざまな視点で排水管理を点検し、改善に努めてきました。今後も「化学物質等の有害物質を含む排水（異常排水）を公共水域に流出させない」という基本方針のもと、再度、抜けのない対策になっているかを検証し、さらなる改善に努めていきます。

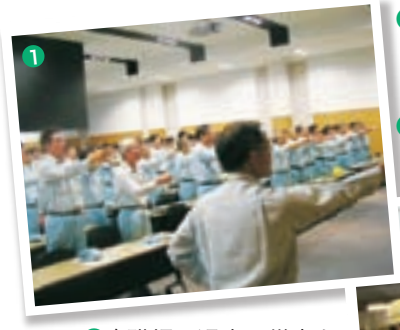
2 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します

●安全・防災への取り組み●●

三菱レイヨングループでは、「対話」を重視した安全意識の高揚、不具合の改善を推進するため、さまざまな活動に取り組んでいます。

2007年度の重点安全活動の継続

2007年度に始めた以下の活動を、2008年度も国内事業所を中心に継続実施しました。



❶経営メンバーが安全の重要性を直接語りかける安全大会(7月)

❷各職制による毎日の一斉巡回(毎日13時〜13時半)

❸自職場の過去の災害を風化させないための安全行事

❹安全強化月間(12月)

2008年度に始めた・拡大した活動

①各事業所と国内グループ会社の安全担当者の集合教育

②新規及び更新設備の安全・環境評価(対象範囲の拡大)

③総合監査の報告・議論の内容の充実

④三菱麗陽(上海)管理の安環品・コンプライアンス室による中国グループ会社への支援活動 →P.14

この他、疑似体験により怖さを実感する体験学習なども取り入れ、教育の充実を図っています。

国内グループ会社の安全担当者教育

安全活動の結果

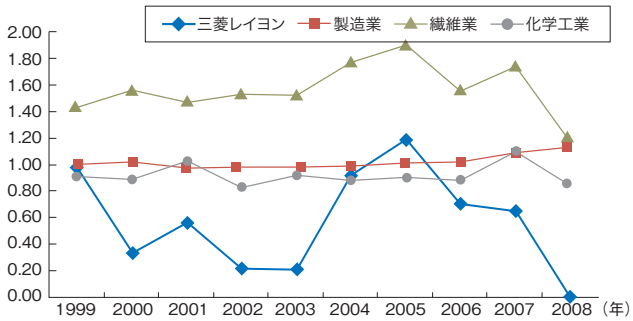
結果の概要はP.16をあわせてご覧ください。

労災の発生原因では、切れ・こすれ、墜落・転落が大幅増加しています。いずれの発生原因においても、経験年数3年以下の被災者が約半数を占めています。このことからも、経験の浅い人への対応が重要であり、対策を進めています。

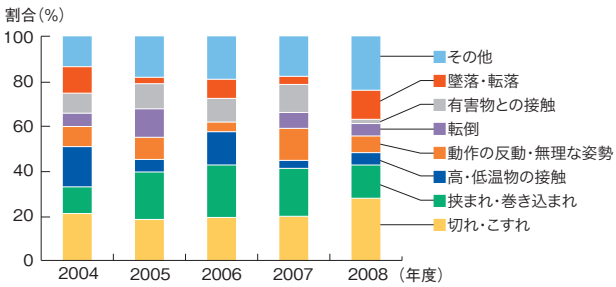
事故については、発生件数はここ3年減少傾向にあるものの、漏洩・流出、落雷等の瞬時電圧低下による運転停止、事業所内での車両による物損事故等、その要因の傾向は変わっていません。今後も類似事故の発生を未然に防ぐための取り組みを継続していきます。

休業労働災害度数率※推移(休業1日以上)

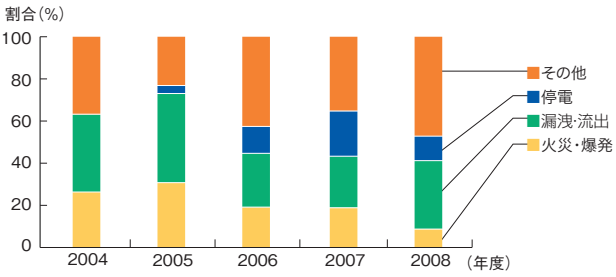
※休業労働災害度数率：延べ労働時間100万時間あたりの休業労働災害者数



労働災害発生原因(MRCグループ)



事故発生原因別グラフ(MRCグループ)



環境関連データの集計対象

製造加工を主体業務とする会社を対象としています。本文中の表記については①～④をご覧ください。対象となる会社、データの詳細はウェブサイトをご覧ください。

①MRCグループ：②～④を加えたもの
②MRC：三菱レイヨン及び三菱レイヨン事業所内のグループ会社
③国内グループ：②以外の国内の連結子会社
④海外グループ：海外の連結子会社

ウェブサイトもご覧ください。

Access http://www.mrc.co.jp/csr/

CSR ＞環境・安全活動
- 安全・環境・品質管理体制
- 安全・防災への取り組み

防災活動

三菱レイヨングループでは、災害を予防するための安全教育、設備改善、防災訓練などの防災活動を進めており、近隣組織との合同防災訓練等にも参加しています。

また、輸送中の事故・災害防止と発生時の物流安全対策にも取り組んでいます。

防災訓練（大竹事業所）

防災訓練（横浜事業所）

●確認とフォローの実施●●

PDCAサイクルが機能するシステムを維持するために、各監査などを通し、確認とフォローを進めています。

安全・環境・品質の監査

監査	内容	2008年度の結果
総合監査	安全環境品質委員会による経営が行う監査（オブザーバー：監査役、ユニオン幹部）	各事業所とも精力的に活動を行っていることを確認しました。活動の結果を次の活動につなげることと工場間の連携・情報交換をより積極的に進め、さらに実効の上がるものとするように指示しました。
部門監査	総合監査を補完する監査で、サンプリングした部署の詳細な監査	各部署とも多くの活動を実施し、管理レベルが向上してきていることを確認しました。自部署の弱みを的確に掴み、弱みの部分を優先的に改善するよう指示しました。
グループ会社監査	安全環境品質委員会の承認に基づき、グループ経営の一環として実施する監査	各社ともに体系付けられた管理体制に則って活動していることを確認しました。昨年監査した会社と同じく、一つ一つの活動でしっかりとPDCAを回すことを依頼しました。
特別監査	重大事故・労働災害が発生した場合に、安全環境品質委員会委員長の指示により実施する監査	再発防止対策の内容、実施状況について議論をし、現場の意見を反映して、実効が上がるように進めてもらうことを指示・依頼しました。
PL・品質監査	安全環境品質委員会の承認に基づき、営業から製造まで一気通貫で実施する監査	品質保証の仕組みに則って業務が進められていることを確認しました。品質関係のデータベースのより有効な活用など、さらなる機能向上を目指すことを指示・依頼しました。
臨時監査	他に分類されない臨時に行う監査	―――
製造委託先品質監査	MRC製品の製造を委託している会社に対して行う品質監査	品質管理業務の一部について、改善をお願いしました。

安全3原則

安全3原則
- 決めたことは守る
- 安全優先の行動をとる
- 管理者は安全確保の責務を果たす

Three Principles of Safety
- Honor your commitments
- Make safety your top priority in your conduct
- Managers shall be responsible for securing safety

关于安全的基本三原则
- 遵守已定事项
- 采取安全优先的行动
- 管理者履行确保安全的职责

2 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します

●環境負荷低減への取り組み●●

化学物質排出削減活動

MRCグループは、第4期化学物質排出削減計画(目標年度:2010年度)に基づき削減活動に取り組んでいます。

また、削減計画を確実に進めるために個別管理物質の2010年度の削減目標を策定しました。

【目標】

①総排出量の削減(目標年度:2010年度)

i)MRCグループ(MRC及び2003年度末までに稼働したグループ会社)から排出されるMRC-PRTR調査対象物質※(490物質)の総排出量について、2000年度(基準年度)の50%にする。

ii)2004年度以降に稼働したグループ会社については、排出されるMRC-PRTR調査対象物質(490物質)の総排出量を2007年度(基準年度)の75%にする。

②個別管理物質の排出量削減(目標年度:2010年度)

以下の物質毎に排出量の目標を設定し、削減する。

i)MRCにおいて大気への排出量の多い大気汚染防止法優先取組物質を含むVOC16物質(MRCにおける大気への排出量)

ii)MRCグループにおいて排出量の多い5物質(MRCグループにおける全排出量)

【結果】

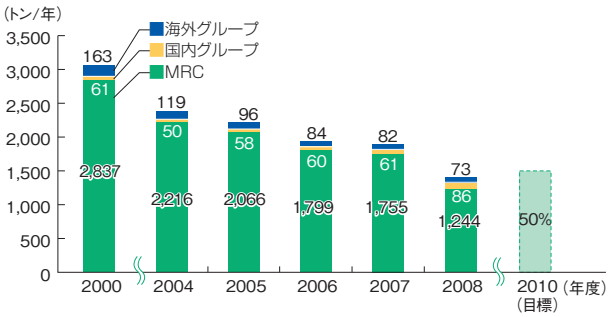
総排出量は、生産量の大幅な減少もあり、目標値よりも少ない値となりました。生産量が回復しても目標を達成すべく削減活動を進めていきます。

また、削減計画を確実に進めるために個別管理物質の2010年度の削減目標を設定しました。

目標および結果の詳細はホームページにて公表します。

※MRC-PRTR調査対象物質
日本化学工業協会が会員企業に対し実施しているPRTR調査の対象となっている480物質(法による届出対象物質354物質を含む)にMRCからの排出量が多いジメチルアセトアミド他を加えた物質群のこと。

化学物質総排出量(第4期目標①i)



廃棄物の削減・リサイクル

MRCでは、動力燃焼灰を除く外部埋立量について2010年度の目標(2007年度見直し)を定め削減に努めています。2008年度は生産量の大幅な減少もあり、2010年度目標を達成しました。

MRCにおける全廃棄物量については、93千トン(前年度比18千トン減)となりました。リサイクル率については新たに発生した廃棄物の影響で悪化しました。

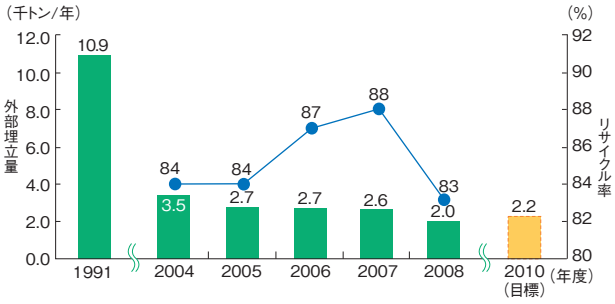
【目標】

外部埋立量(除く動力燃焼灰)を2010年度までに1991年度比20%にする。

【結果】

1991年度比　19%(達成率:対2010年度　101%)

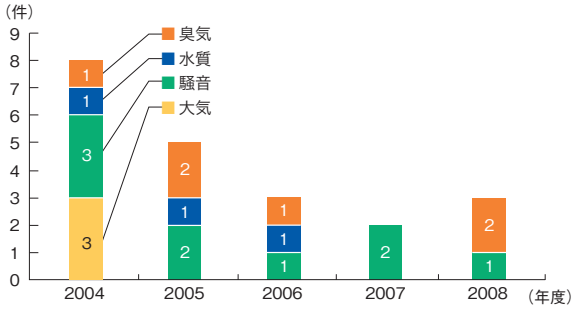
MRC外部埋立量(除く動力燃焼灰)及びリサイクル率



環境に関する苦情

2008年度、三菱レイヨン大竹事業所(臭気)及び富山事業所(臭気と騒音)において苦情をいただきました。各事業所では、直ちに現場を確認し、不具合箇所の改善を実施しました。三菱レイヨングループは、皆様からのご意見を真摯に受け止め、事業活動の改善に努めていきます。

MRCグループへの苦情(件数)



環境関連データの集計対象

製造加工を主体業務とする会社を対象としています。本文中の表記については①～④をご覧ください。対象となる会社、データの詳細はウェブサイトをご覧ください。

①MRCグループ：②～④を加えたもの
②MRC：三菱レイヨン及び三菱レイヨン事業所内のグループ会社
③国内グループ：②以外の国内の連結子会社
④海外グループ：海外の連結子会社

ウェブサイトもご覧ください。

Access http://www.mrc.co.jp/csr/

CSR ＞環境・安全活動
- 環境負荷全体像
- 化学物質削減への取り組み
- 地球温暖化防止への取り組み
- 廃棄物削減への取り組み
- 環境データ

●地球温暖化防止への取り組み●●

低炭素社会に向けて

私たちは地球温暖化防止のために、色々な活動を行っています。MRCグループから排出される温室効果ガスは、CO_2がほとんどです。その内、8割がエネルギー起源のCO_2です。そこで私たちは、省エネルギーを中心に、燃料転換や省資源活動に工夫を凝らしながら、CO_2の排出削減に努めています。

私たちの主な活動

- 生産部門や事務所における省エネルギー活動
- 物流部門における省エネルギー活動、燃料転換
- エネルギー部門を中心にした省エネルギー活動、燃料転換
- 省資源活動

2008年度からはこれまでの活動を見直し、エネルギーフロー図を新たに作成してエネルギーロスの撲滅に励んでいます。

【目標】

●エネルギー消費原単位

1990年度に比較して2008～2012年度の平均値で、20%以上削減する。

●エネルギー起源CO_2排出量

2008～2012年度の平均排出量を、1990年度の値以下にするよう努力する。

【結果】

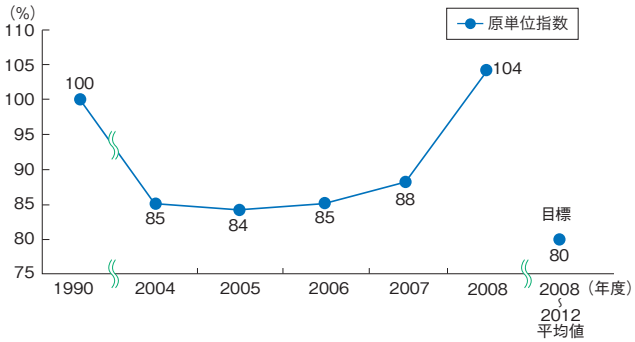
景気後退に伴う生産量の大幅な減少もあり、エネルギー起源のCO_2排出量は大幅に減少しました。一方、急激な変化に対応しきれずエネルギー消費原単位は大幅に悪化しました。景気回復時にもCO_2排出量が増加しないよう、一段と省エネルギーに励みながら、低炭素エネルギーの活用を進めることで今後も温暖化対策に取り組んでいきます。

Topics

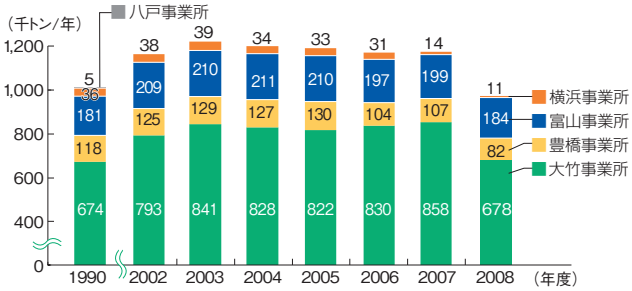
富山事業所でバイオディーゼル燃料（BDF）を活用

場内で発生する食堂廃油を隣接のエコタウン産業団地にある富山BDF㈱でBDF化し、場内の作業用トラックで2007年度から使用を開始しました。2008年度はフォークリフトにも展開し、BDF使用量も約9,000ℓ/年となりました。これからも、できる限り廃食油をBDF化し、地球温暖化防止に努めていきます。

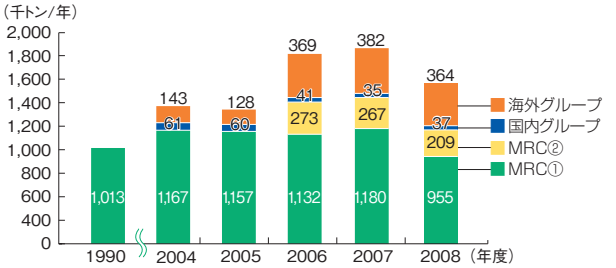
MRCエネルギー消費原単位指数



エネルギー起源CO_2排出量



温室効果ガス排出量（CO_2換算）



注1）MRC①は国内4事業所のユーティリティ、工場使用燃料由来のCO_2発生量
注2）MRC②は地球温暖化対策推進法、省エネルギー法改正に伴って追加した対象由来のCO_2排出量

GHGインベントリー集計結果（CO_2換算）

2008年度内訳（千トン／年）	CO_2		その他5ガス
	エネルギー起源	非エネルギー起源	
MRC	976	185	4
国内グループ	37	0	0
海外グループ	247	117	0

注）エネルギー起源CO_2には、社用車、場内物流によるCO_2排出量を含む

物流（外部委託）における排出量

（千トン/年）

年度	2004	2005	2006	2007	2008
CO_2排出量	43	42	17	15	11

注）2006年度より改正省エネルギー法に準拠し、算出方法を変更しました

3 私たちは最高の質を目指す商品・サービスを提供します

私たちは、三菱レイヨングループの企業理念を実践し、お客様の視点に立った真に満足していただける、優れた商品と、細やかなサービスを提供いたします。

2008年度 重点課題

CSR調達活動の推進

三菱レイヨングループでは「最高の質を追求し、人々の豊かな未来に貢献します」の経営理念のもと、原材料、資材・工事の購買・調達活動においても、広く取引の門戸を開放し、公明正大で透明性のある取引慣行を基本方針として行動します。

CSR調達方針

1. 法令・社会規範の遵守	私たちは健全な購買・調達活動をすすめていくために、高い倫理観を持ち、法令と社会規範の遵守を活動の基本姿勢とし、公平で公正な職務の遂行に努めます。
2. 購入製品の環境保全と安全性の確保	私たちは製品・サービスを購買・調達するにあたり、常に環境への配慮と安全性の確保を最優先事項として職務の遂行に努めます。
3. 人権尊重と労働環境の向上	私たちは購買・調達活動において、そこで働く人々の基本的人権を尊重し、不当な差別をすることなく、職務の遂行に努めます。同時に三菱レイヨングループの職場で働く全ての人々の安全・衛生の確保、職場での労働環境の向上に努めます。
4. パートナーシップの構築	私たちは、全てのお取引さまが事業遂行のパートナーであるとの基本認識にたち、相互の信頼関係を保ちながら、公明正大で透明性のある購買・調達活動に努めます。
5. お取引さまへの要望	① 法令・社会規範の遵守 ② 環境保全と安全性が確保された製品・サービスの提供 ③ 人権尊重と労働環境の改善・向上の取り組み ④ 適正な品質・価格、確実な納期、迅速な情報の提供

（2008年制定）

2008年度CSR調達活動の内容

❶CSR調達推進研修会

日々のCSR調達活動において、担当者の意識に社会の良識、法令遵守（コンプライアンス）を根付かせることを最重要事項としています。

商品の基礎である原材料の調達の段階から、環境改善に有効な技術・商品の生産（開発）を積極的に進めるため、CSR調達推進研修会を定期的に実施しています。

CSR調達推進研修会

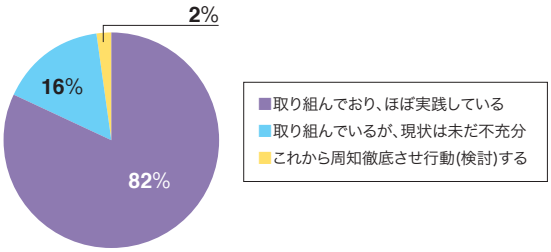
❷取引先へのCSR実態調査

国内主要取引先約260社を第一次調査対象先として抽出し、三菱レイヨングループCSR調達方針への趣旨賛同を要請しました。

また、CSR取り組み状況について、アンケート方式で記述（CSR調達要望事項設問10項目の自己評価）を依頼し、その実態調査を行いました。

自己評価のアンケート回収率は99%となり、下表の調査結果を得ました。この調査結果は、CSRの意識醸成、改善策などに活用する予定です。

取引先のCSR活動取り組み状況



製品安全・品質管理のための対応

REACHへの対応

2007年6月に欧州でREACH法が施行され、2008年6月より予備登録が開始されました。三菱レイヨングループは法施行前より欧州の法律事務所、登録代理人との連携体制を確立し、予備登録対象物質の選定、準備を計画的に進め、国内・海外を含む当社グループ全体で195物質の予備登録を完了しました。今後は本登録に向けて本格的に動き出すEUコンソーシアムと協調して、REACH登録を進めていきます。

GHSへの対応

2007年12月に労働安全衛生法の暫定措置が終了しましたが、当社は前倒しでGHS対応を完了しました。また昨年より、アジア各国でのGHS法施行が進展してきており、2008年12月に台湾、2009年2月に中国で施行されている現状を踏まえ、現地コンサルティング会社、法律事務所とのコンタクトにより、適確な対応を進めています。今後は欧州、韓国をはじめとしたGHS対応を行っていきます。

MMAモノマーのドラム缶天板に貼られたGHS対応ラベル

PCB（ポリ塩化ビフェニル）への対応

PCB特別措置法の施行により、当社では2015年までに高濃度はもとより低濃度PCB含有機器についても全廃の方針を決定しました。この全廃には、更新時期が2015年以降であるものについても、前倒しに更新することを含みます。国はPCB特別措置法の施行とともに日本環境安全事業株式会社（JESCO）を設立し、PCBの処理を集中的に開始しました。当社も当該施設に処理計画を提出し、高濃度PCB含有機器の計画的な処理を予定していました。ところが2006年に処理施設のトラブルが相次いだため、現在のところ処理計画は大幅に遅れています。また、低濃度PCB含有機器の処理は高濃度機器に比べて簡便となりますが、処理方法は未定です。当初方針の全廃時期に遅れがでる可能性がありますが、廃棄できるまで、法に則り確実に保管管理していきます。

CSR調達のさらなる広がりを
ー2009年度CSR調達活動計画ー

三菱レイヨングループが環境にやさしい製品の一層の広がりと成長を図るためには、CSR調達活動を通して、原材料の段階から「安全で安心して暮らせる社会形成」に貢献することが要であると考えています。そのために、2008年度に実施したCSR実態調査やCSR調達方針を浸透させるための活動を、2009年度には対象をさらに広げて実施する予定です。

また、当社の生産活動で使用する一般消耗品の調達は、2009年度中にMRO購買システム（Maintenance, Repair and Operation）を主事業所へ導入し、商品カタログに掲載された地球環境に配慮した「グリーン購入法適合品」「エコマーク」「グリーンマーク」「FSC※マーク」などのついた商品を積極的に選択購入していきます。

原料部長
北　耕太郎

※FSC（Forest Stewardship Council、森林協議会）
環境や地域社会に配慮して管理・伐採された森林から生産された、木材や木材製品（紙製品を含む）を認証する国際機関の一つ。

4 私たちは社会との共生に努めます

私たちは、事業活動に係わる顧客・消費者、地域社会、株主・投資家、取引先などのステークホルダーとの関係を重視し、友好的且つ適正な関係の維持、発展に努めます。

2008年度 重点課題

次世代育成教育活動

子どもたちの「なぜ?」「どうして?」は、ものづくりの原点です。私たちの製品や身の回りのものを使って、科学の不思議さやおもしろさを伝えたいとの思いから、小・中学校への出張授業を行っています。大竹事業所の研究員から生まれた光の実験プログラムは、他事業所や本社に広がり、多くの子どもたちに光のおもしろさを伝える機会となっています。

富山事業所では例年行っている地域住民のための工場見学会の際に、実験教室を同時開催しました。親子で参加した方からもこの実験プログラムは大変好評で、幅広い年齢の方に楽しんでいただいています。

2008年の夏休みには日本科学未来館で開催された「夏休み子ども化学実験ショー」に出展し、実験スタッフとして研究員だけでなく、事務系従業員も参加しました。

将来の日本を担う子どもたちのために、ものづくりの現場から、企業だからこそできる活動を今後も積極的に展開していきます。

小学校への出前授業(大竹事業所)

工場見学と実験教室を同時開催(富山事業所)

夏休み子ども化学実験ショー

研究員も事務系従業員も参加しました!!

Voice

多くの笑顔に触れた“夏休み子ども化学実験ショー”

“夏休み子ども化学実験ショー”に、当社スタッフとして参加しました。私は普段、光ファイバーの営業を担当しています。化学実験ショーへの参加で、自らが営業として扱っている商材が、めぐりめぐって多くの人達の笑顔につながっていることが実感でき、仕事に対するモチベーションはより一層向上しました。また、子どもたちの無限大の好奇心は大人の想像をはるかに超えたもので、驚きの連続でした。理系離れが進む昨今、化学実験教室への参加は化学メーカーとして非常に意義深いCSR活動であり、また私自身その活動に参加できたことで、充実した時間を過ごせました。

本社 光デバイス部
佐藤　徳彦

●文化・芸術活動への取り組み●●

炭素繊維を利用した水質浄化実験への素材提供

豊橋事業所近隣の浜松市三ケ日町を拠点とする浜名湖ロータリークラブでは、3年ほど前から炭素繊維を利用して猪鼻湖（浜名湖の北端）の水質を浄化する実験に取り組んでいます。また、同クラブでは地元の小学校2校で環境問題について特別授業を実施しています。この特別授業の中では、実際に炭素繊維を使って近在の池の水を浄化する実験も行われ、実験に使用する炭素繊維を三菱レイヨンが提供しています。

水質浄化実験

ソアロンデザインコンテストへの協賛

三菱レイヨン・テキスタイルは、ファッション業界の将来を担う学生（文化学園）を対象としたデザインコンテストに協賛しています。使用する生地として、地球環境にやさしく、希少価値の高いトリアセテート繊維《ソアロン》を提供しています。

ソアロンデザインコンテスト

全日本学生フォーミュラ大会出場校への炭素繊維提供

“軽くて強い”炭素繊維は、大幅な軽量化を実現できる素材として注目されています。「全日本学生フォーミュラ大会」は学生がチームを組んで車体の企画・設計・製作を行い、ものづくりの総合力を競う大会です。当社ではこの大会に参加する豊橋技術科学大学・自動車研究部に、車体やパーツの素材として炭素繊維を提供しています。

全日本学生フォーミュラ大会

アクリル樹脂製芸術作品への素材提供

アクリル樹脂成形材料《アクリペット》、アクリル樹脂板《アクリライト》は、丈夫で透明度も高く、自由に加工することができます。そのユニークな特徴は、芸術分野でも注目されており、2008年には芸術家・サイヒロコ氏の作品素材として当社製品を提供し、作品は東京都主催の“世界を拓く「平和の文化」アート展”に展示されました。

アクリル樹脂板の芸術作品

●海外グループ会社の取り組み●●

海外グループ会社においても、その国の文化や慣習を理解し、尊重しながら社会との共生に努め、さまざまな活動を行っています。

ダイヤナール・アメリカ社では地元企業とともに、住宅地の植栽活動などのボランティアに従業員が参加しています。また、2007年にスタートした近隣高校とアジアの国の学生が交流する社会学習プログラムにも従業員を派遣しています。

地元高校生とアジアの学生の交流プログラム（ダイヤナール・アメリカ社）

ボランティアに参加したメンバー（ダイヤナール・アメリカ社）

私たちは社会との共生に努めます

2008年度 TOPICS

●地域とのコミュニケーション●●

❶大黒町十二社会クリーン作戦（横浜事業所）

❸クリーンアップ豊橋（豊橋事業所）

❺「とやま県繊維トレードショー」へ出展（三菱レイヨン・テキスタイル 北陸出張所）

❷海岸清掃（富山事業所）

❹サマーフェスティバル（大竹事業所）

❻労使共催「三菱レイヨン杯少年サッカー大会」（大竹事業所）

❼中高生の職業体験（大竹事業所）

清掃活動

きれいなまちづくりのために、周辺地域の清掃活動を定期的に行い、従業員やその家族が参加しています。社内の活動だけではなく、自治体やNPO主催の清掃活動へも参加しています。（写真①～③）

地域住民との交流

対話集会などに参加することにより、地域社会との意見交換や情報収集に努めています。また、各地でサマーフェスティバルなどを開催し、多くの地域住民とのコミュニケーションを図っています。（写真④）

地域の展示会への出展

事業所やグループ会社が所在する地域で開催される展示会に参加することにより、多くのお客様や地域住民の方々との直接対話に努めています。（写真⑤）

スポーツ大会の開催や施設開放

事業所の周辺地域を中心に、サッカーや野球の大会を開催し、スポーツを通じての地域との交流、青少年の育成に取り組んでいます。また、会社の体育館やグラウンドの施設を地域に開放しています。（写真⑥）

中高生の職業体験

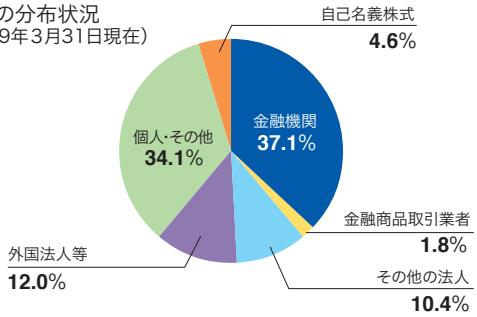
中高生が職業に触れる機会として、各地の工場見学や職業体験を実施しています。自治体が主催するキャリア教育プログラムなどにも、毎年参加しています。（写真⑦）

●株主・投資家とのつながり●●

株式の状況と株主構成

2009年3月末における三菱レイヨンの発行済株式の総数は599,997,820株であり、その株主数は約8.3万名でした。株式保有者の構成は、金融機関が37.1%、個人・その他が34.1%、外国法人が12%、その他の法人が10.4%、さらに自己株式が4.6%、金融商品取引業者が1.8%でした。昨年対比では外国法人の株式比率が減少し、個人・その他の株主比率が増加しました。

株式の分布状況
(2009年3月31日現在)



＊小数点第2位以下を四捨五入

利益配分に関する考え方

三菱レイヨンは、株主への利益還元を経営の最重要政策の一つであると認識しています。

配当については、継続的かつ安定的に実施することを基本に、将来の事業展開に備えるための内部留保の充実を勘案の上、実施する方針です。

情報開示に対する姿勢

三菱レイヨンは企業倫理憲章において「適切な情報の開示と秘密情報・個人情報の管理」を原則の一つとして掲げ、さらに2008年4月には当社グループの企業経営に関する重要な情報を、開示基準に則り、適時適切な方法で開示するため「企業情報開示規則」を制定し、遵守しています。IR活動においても株式市場に対する適時適切な情報開示、ホームページを通じた最新ニュースの配信や会社情報の提供、各種業績資料の開示など、ステークホルダーに対して当社グループの正しい情報を発信しています。

機関投資家への対応

四半期毎の決算発表時は、テレフォンカンファレンスや決算説明会を実施し、業績や事業状況について理解を深めてもらえるよう努めています。また、2008年度は第6次中期経営計画のスタートの年でもあり、証券会社主催のスモールミーティングやカンファレンスに参加し、企業情報の開示に努めました。

個人投資家との対話

2009年6月に開催された第84期定時株主総会では活発な質疑応答があり、経営者は出席した多くの株主から貴重な意見を直接受け取ることができました。また、同時に設置した製品展示コーナーでは新製品に関する多くの質問をいただきました。

また、個人投資家向け会社説明イベントにも参加し、2008年8月には「日経IRフェア」(日本経済新聞社主催)、12月には「技術を知るIRフォーラム」(日興アイ・アール社主催)に出展しました。当社の展示ブースは、投資家から注目される炭素繊維事業や水処理事業に関する製品展示を中心に構成され、当社からの事業説明に対し、熱心な個人投資家から直接質問や意見をいただくことができました。

第84期定時株主総会における製品の展示コーナー

日本経済新聞社主催「日経IRフェア」

今後のIR活動

今後も株主や投資家をはじめ全てのステークホルダーに対し、よりわかりやすく、適時適切な情報の開示を心がけ、積極的なIR活動に努めていきます。

5 私たちは一人ひとりの従業員を大切にします

私たちは、従業員はかけがえのない財産であるとの認識のもと、三菱レイヨングループで働く全ての人々の人権を尊重し、安全な職場環境を構築し、能力の開発・活用のための機会を提供します。

●人材育成●●

企業の成長力・競争力の源泉は人と組織の力であるという考えのもと、三菱レイヨングループでは、人材確保と育成・活用を経営の重要課題と位置づけ、重点的に取り組んでいます。

各種研修制度

日常業務の遂行を通じた能力開発（OJT）や各種研修制度、自己啓発支援等を組み合わせ、社員の自発的な能力開発を支援しています。新入社員研修や役職に応じた各研修では、人権啓発、法令遵守、企業倫理の徹底、安全環境管理の推進を共通テーマとして採り上げています。また海外への事業展開が進む中、その地域の文化や制度を理解してマネジメントできる人材の育成を強化していきます。

自己開発研修

主に若手総合職社員向けに、キャリア開発演習を行います。三菱レイヨングループ社員としての成長イメージを掴み、中長期的視点での能力開発に努めることを狙いとしたキャリア開発演習を行っています。

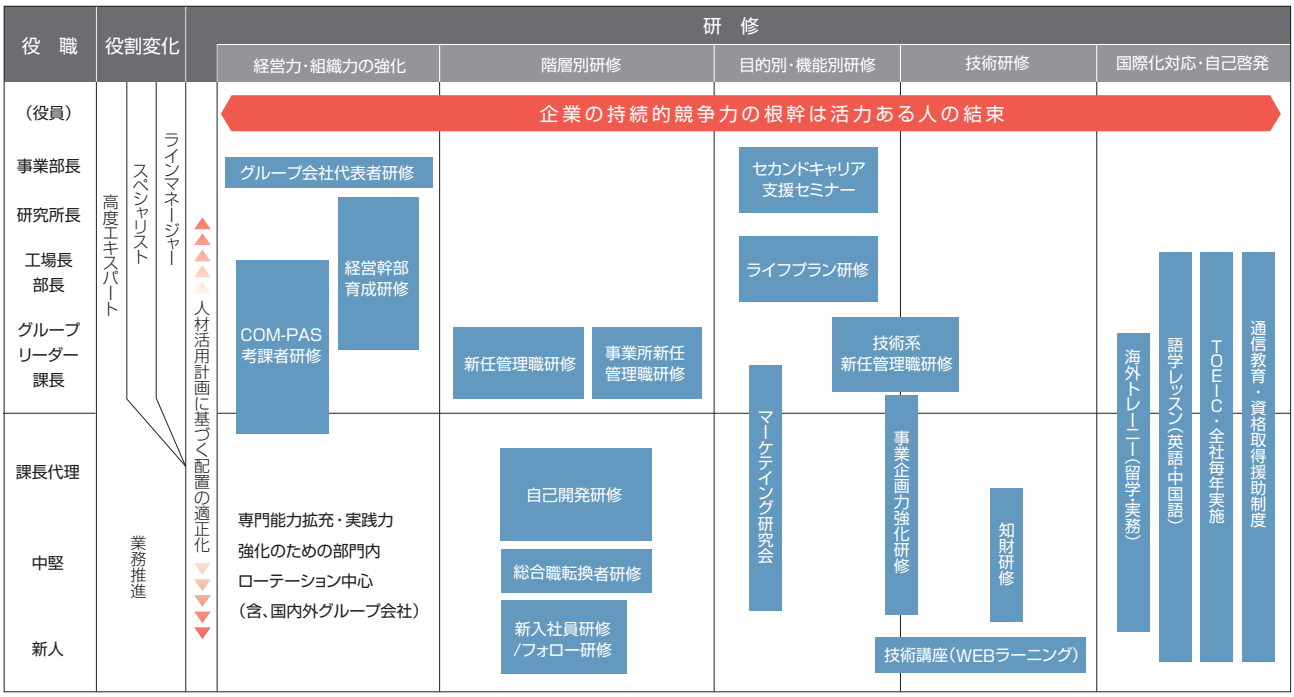
新任管理職研修

新たに管理職に昇格した社員向けに、コミュニケーションやリーダーシップのあり方をはじめとするマネジメント力の強化を行い、より円滑かつ効果的な組織運営を目指します。また技術系の新任管理職には、製造現場のリーダーとして活躍するための安全・生産管理に特化した研修があります。

ライフプラン研修

再雇用制度等、定年以降も働き続ける選択肢が増えた中、60才以降のライフデザインを視野に入れたキャリア開発や経済生活基盤への認識を高めるための支援も行っています。満50才に到達した管理職全員を対象に行う「ライフプラン研修」はキャリア開発を中心とし、自己理解を深め、今後の行動目標を明確にすることを目的としています。また「セカンドキャリア支援セミナー」は、満57才の管理職全員が対象の、経済生活設計を中心としたセミナーです。

三菱レイヨングループ人材育成施策



目標管理に基づく人事評価システム “COM-PAS”

三菱レイヨングループがUS※1企業として成長し続けるためには、グループ構成員のベクトルを揃え、それらを強固に結束させることが何よりも重要と考えています。そこで、組織内のコミュニケーションを活発にして、各社員が組織目標を共有、目標に向け果敢にチャレンジし、その実現に成果をあげた人を適切に評価する人事考課制度を導入しました。愛称を「COM-PAS」(Communication,Plan,Action&Success)といいます。この制度をさらに実効あるものにするため、毎年管理職を中心に考課者研修を行い、評価の公平性、納得性、透明性を高めるよう努めています。目標設定から考課に至る、目標管理を軸としたこの人材マネジメントプロセスにより、社員個々人の能力を最大限に引き出し、ひいてはこれがグループ全体の組織力発揮につながると考えています。

※1 US：独自性と優位性を併せ持った事業Uniqueness Specialtiesを意味する。

COM-PAS考課者研修
(2008年度までに延べ530名以上が受講している)

COM-PASの制度説明会の様子
(Mitsubishi Rayon America Inc.：ニューヨーク)

Voice

日本と中国の架け橋に

写真左)筆者
写真右)畔上 董事総経理(当時)

三菱麗陽高分子材料(南通)有限公司
副工場長
林 海

大学卒業後、1996年に大学院留学のため、来日しました。2003年に三菱レイヨンに入社し、2年間の富山事業所樹脂工場勤務を経て、三菱麗陽高分子材料(南通)有限公司工場立上げのため、中国・南通に赴任しました。現在副工場長として、アクリル樹脂板製造工場の運営全般を担当しています。入社以来、会社から大きな責務を任せられ、技術者、管理者として実務を通じて育てられてきました。赴任後は、文化の違う日本人と現地従業員間の架け橋になるつもりで、長年日本生活で理解した日本の文化、企業の文化を現地の仲間に的確に伝え、相互の理解を深めることで、工場垂直立上げを実現させ、安定生産体制と安全生産を維持しています。現在、各種日本流の生産改善活動を導入しつつあり、工場従業員全員の成長を図り、将来は中国グループ会社のモデル工場にしたいと考えています。

5 私たちは一人ひとりの従業員を大切にします

●ワーク・ライフ・バランス●●

仕事と家庭の両立支援策

仕事と家庭の両立など、従業員が働きやすい環境をつくることで企業の活力を向上させ、社会への貢献を果たしていくことを目指し、2005年度より次世代育成支援対策推進法に基づく「一般事業主行動計画」を策定し、その実現に向けて取り組んでいます。2008年には、その取り組み達成状況に対し、「基準適合一般事業主」として東京労働局の認定を受け、次世代認定マーク(愛称:くるみん)を取得しました。

2009年3月時点での当社両立支援制度の主な内容は次の通りです。

育児関連

- ●育児休業制度の利用対象期間
  (子が満3才到達後の4月末まで)
- ●同一子について育児休業制度の取得回数制限の撤廃
  (夫婦交替での休業取得を可とする)
- ●生活支援金(育児)※1の給付
- ●育児短時間勤務制度の利用対象期間
  (子が小学校3年生の学年終了まで)
- ●ハートフル休暇※2の取得要件の拡大
  (小学校3年生の学年終了までの子の育児に利用可能)

介護関連

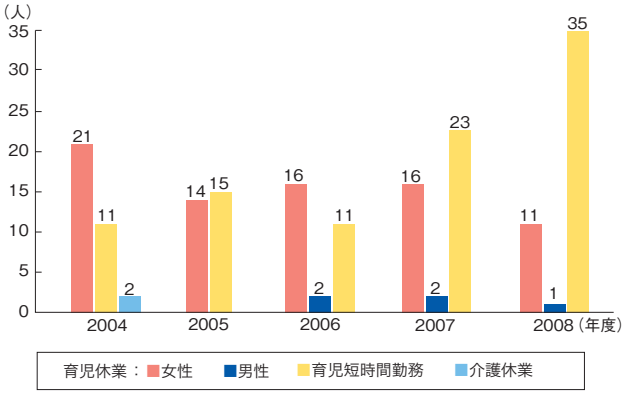
- ●介護休業制度の利用可能期間
  (対象家族一人につき、介護短時間勤務と通算して365日間まで)
- ●同一の要介護状態における介護休業取得回数制限の撤廃
  (夫婦交替での休業取得を可とする)
- ●生活支援金(介護)※1の給付

次世代認定マーク
「くるみん」

この他にも、育児休業者のための支援サイトとの契約、ベビーシッター育児支援割引券補助制度、育児ホームヘルパー料補助制度(福祉会)、「ウェルカムバック」制度等があります。このような制度面の拡充に加え、さまざまな生き方や価値観をお互いが尊重し、理解し合う企業風土を育むことで、引き続きワーク・ライフ・バランスの実現を推進していきます。

ワーク・ライフ・バランス推進関連の配布冊子

育児・介護関連制度利用者数



※三菱レイヨン及び三菱レイヨン・エンジニアリングにて集計

ウェルカムバック制度

自己都合で三菱レイヨンを退職した社員が、再び当社で活躍できるよう、2008年1月より退職者復職登録制度を開始しました。出産や介護といった退職理由に限らず登録が可能な点が特徴で、さまざまなライフステージの状況変化に適応した新しい退職者復職制度といえます。2009年4月現在、11名の登録者(うち男性3名)がいます。

※1 生活支援金(育児/介護):
育児(あるいは介護)休業を取得したことにより賃金を受けられなかった期間について、所得支援を目的として支給する当社制度。
①育児休業基本給付金の対象となる期間
休業日数×標準報酬日額×100分の10
②育児(介護)休業基本給付金の対象とならない期間
休業日数×標準報酬日額×100分の40
雇用保険からの給付金とあわせると、休業中の全期間にわたって休業前給与の4割相当が支給されることになります。

※2 ハートフル休暇:
失効した前々年度発生分の年次有給休暇を、年5日を限度に最大40日まで積立できる当社制度。本人の私傷病療養の他、家族の看護、地域・社会貢献活動等に利用可能。

●働きやすい職場のために●●

人権保護

三菱レイヨングループは、「企業倫理憲章」第４項において、「私たちは、あらゆる企業活動において、個人の人権、人格、個性を尊重すると共に、従業員の人格・個性を尊重し、安全で働きやすい環境を確保します」と掲げ、この精神に則り、人権が尊重される公正な職場環境づくりに努めています。また各種社員研修において人権啓発の講座を設け、人権尊重の意識醸成に取り組んでいます。

セクシャルハラスメントについても、就業規則の中でセクハラを許さない、という姿勢を明確にし、社内報や社員研修において啓発を行っています。また本支店・各事業所に相談窓口を設ける他、対策委員会を設置し、万が一発生した場合でも、速やかに対応できる体制づくりを行っています。

障がい者雇用

障がい者の雇用率については、2009年3月現在1.9%となっています。企業の社会的責任の一環として、今後とも法定1.8%の達成、さらなる向上を目指して求人活動を行うとともに、職場の開発に全社的に努力していきます。

再雇用制度

三菱レイヨンでは2001年度より再雇用制度を開始し、改正高年齢者雇用安定法(2006年改正)の主旨に基づき再雇用を行っています。定年後も当社グループでの継続雇用を希望し、会社が提示する条件に同意が得られる社員は、管理職も含め、原則として全員再雇用の対象となります。定年以降も現役時代と同様に、高い意欲をもって働き続けられるよう、働き方に応じた処遇制度を設けています。

私傷病欠勤・休職からの復職・復帰支援

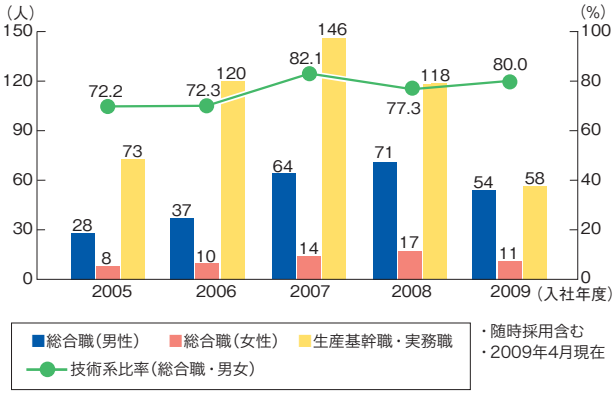
心身の病気や怪我は、生活習慣の改善や日ごろのケアにより未然に防ぐことが大切ですが、もし病気や怪我をした場合は、必要な期間、療養に専念し、スムーズな職場復帰ができる環境が必要です。そこで当社は2008年4月より、心身の病気による休業からのスムーズな職場復帰を支援するためのプログラムや制度を新設しました。療養中は当社産業医を交えたフォローを行い、本人からの復職申請後に個別に職場復帰プログラムを作成します。これに基づき「ウォームアップ試験出社」「ウォームアップ短時間勤務」の２段階のステップを踏むことが可能です。休業者が必要な準備期間を経て、段階的に完全復帰できるよう支援する新しい取り組みです。

●採用●●

新卒及び随時採用の基本方針

社会の枠組みとともに、企業を取り巻く環境は日々変化しています。その環境を生き抜き、当社グループが目指す姿を実現する可能性を秘めた多様な人材を継続的に採用しています。採用手段としては、新卒者の定期採用はもちろんのこと、即戦力の確保を目指した随時採用にも力を入れています。

三菱レイヨンにおける採用人数推移



インターンシップ

三菱レイヨンでは、主に大学、大学院、高等専門学校の学生を対象に、約2週間のインターンシップを行っています。各事業所において毎年10名～20名を受け入れ、製造、研究の現場で実際の業務に触れながら、自身のキャリアプランについて考える機会を提供しています。また外国人留学生にも門戸を開いています。

化学会社としての責任を果たし 社会の持続的発展に貢献していくために

～より有意義なCSR活動を目指して～

三菱レイヨングループのＣＳＲの方向性や課題を確認し、今後どのように取り組んでいくべきか、CSR経営研究の第一人者である國部克彦神戸大学大学院教授のご意見を伺いながら進むべき方向について考えます。

本業を通じて企業の責任を果たしていく

田尻　國部先生には昨年に続いてご意見をいただければと存じます。今年のＣＳＲ報告書をご覧になってのご感想をお聞かせください。

國部　まず、昨年の指摘事項について「ＣＳＲ報告書2008でいただいた第三者意見」（Ｐ４）できちんと取り組み結果を報告されていることに感心しました。また、環境対策をはじめCSRへの意欲的な取り組みがよく分かる内容になっていると思います。

これは全般的な傾向ですが、最近のＣＳＲ報告書を見ると、日本でも本業を通じた社会貢献を強調する企業が多くなっています。その場合、本業とどこが違うのかを明確にしておく必要があると思います。

田尻　「ＣＳＲ」という言葉は、狭い意味では企業の責任、広い意味では社会への貢献ととらえることができ、この二つを合わせたものだと理解しています。三菱レイヨングループには、化学メーカーの責任として絶対に事故を起こしてはいけないという命題があります。まずは事故を未然に防止することによって企業の責任をきちんと果たしていく。その上でプラスアルファの社会貢献をしていきたいと考えています。

國部　企業の責任という観点から、事故や労災発生の原因が詳しく報告書で開示されているのは、誠実さが感じられますね。このほか、ＣＳＲの課題としてはどのようなものがありますか。

田尻　特に社会的に大きな問題になるコンプライアンスの問題に対しては神経を遣っています。最終的には従業員一人ひとりの判断に委ねるわけですが、コンプライアンスの重要性については社長からの直接メッセージや各種研修、冊子などを通じて常に啓発に取り組んでいます。

従業員が自らＣＳＲを考える機会に

國部　従業員に対する教育は非常に大事です。「ＣＳＲ報告書を読む会」では、どのような成果がありましたか。

田尻　昨年度は、４つの事業所で、従業員を対象にした「読む会」と報告書の編集に関わったサポートメンバーとの懇談会を開催しました。「読む会」を通じて多少なりともＣＳＲへの理解が進んだと思いますし、懇談会では事業所での取り組み状況や現場と本社のギャップについて活発な意見交換があり、情報収集にも役立ちました。これに加え2009年度は、新入社員研修や、管理者研修等にCSR教育を組み入れ、啓発活動を進めています 。

國部　大切なのは、従業員の皆さんに何ができるのかを自分たちで考えてもらうことです。伝えるだけでなく、従業員の意見を聞くことも重要ですね。全員参加のＣＳＲ活動には、従業員の責任だけでなく、会社が従業員に対して果たすべき責任も伴います。また、会社の視点だけでなく、社会の視点を持つ人材の育成も必要です。そうした観点から「読む会」を広い視野でＣＳＲを考える機会にしてはどうでしょうか。

次に、環境への取り組みについて伺います。この12月には

神戸大学大学院
経営学研究科教授
國部　克彦氏

【略歴】
大阪市立大学大学院経営学研究科修了。博士（経営学）。2001年より現職。2003年研究成果活用企業「環境管理会計研究所」創設。経済産業省「マテリアルフローコスト会計開発普及事業委員会」委員長、環境省「環境報告書ガイドライン検討委員会」委員等を歴任。著書に『環境経営・会計』（有斐閣）などがある。

代表取締役 専務執行役員
田尻　象運

京都議定書後の新たな気候変動の枠組みを決めるCOP15も開催されますが、CO_2排出量削減についてどのような対応をお考えですか。

田尻　当社はこの10年間、効率的な生産設備の導入や天然ガスへのエネルギー転換により、CO_2排出量削減への地道な努力を続けてきました。今後も低炭素エネルギーの活用、エネルギーロスの撲滅を進めていきます。

また当社の事業で言えば、炭素繊維は製造時には多くのエネルギーを消費しますが、自動車の軽量化や風力発電翼に役立っています。すなわち最終製品も含めたトータルでCO_2排出削減になり、環境に貢献していると言えます。

将来を見据えた戦略的な取り組みを

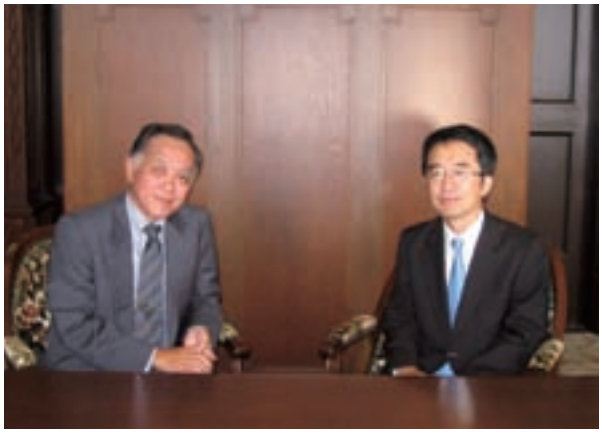
國部　炭素繊維については、材料メーカーが製品メーカーのCO_2排出量削減を支えていることをもっと強調してもよいのではないでしょうか。

もう一つ、今年7月のサミットでは、2050年までに先進国全体でCO_2の80%削減が合意されました。これは、将来は今の延長線上にはないという宣言であり、産業構造を変えない限り実現不可能です。そうした大きな枠組みの中でビジネスを考え、戦略的に対応していくことが非常に重要になります。

田尻　おっしゃるとおりですね。当社でも、原子力発電や太陽光発電などCO_2を排出しない発電装置への材料の提供、CO_2を集めて処理・貯留する新しい技術や材料の開発などの分野で貢献していきたいと考えています。

國部　企業がＣＳＲの取り組みのなかで社会的責任を果たしていく場合、どの部分に対応していくのかを明確にし、方針を決めて推進していくことが大切です。また、これから世の中で何が問題になりそうなのか、正確な情報を入手して対応していく必要があると思います。三菱レイヨングループの今後の活動に期待しています。

田尻　ＣＳＲ活動は当社の存立基盤をなすものであり、これからもグループ一体となって継続していきます。本日は、貴重なご意見をありがとうございました。



編集後記

「三菱レイヨングループCSR報告書2009」は、CSR委員会事務局を中心に、グループ内のさまざまな部署・グループ会社の協力のもと、発行の運びとなりました。2009年度版からは、「冊子」と「ウェブサイト」を使い分けた効果的な報告を目指していきます。読者の皆様からの忌憚のないご意見をいただければ幸いに存じます。

（CSR委員会事務局）

みんなで止めよう温暖化
三菱レイヨン チーム・マイナス6%

レスポンシブル・ケア

三菱レイヨン

〒108-8506 東京都港区港南一丁目6番41号（品川クリスタルスクエア）
三菱レイヨン株式会社

広報・IR室
TEL 03-5495-3100　FAX 03-5495-3184
http://www.mrc.co.jp

Vegetable oil INK for waterless printing
Non VOC INK Version 2

Waterless Printing Naturally.
水をつかわない
環境にやさしい
印刷です。

FSC ミックス品
FSC認証林及び管理された
森林からの製品グループです
www.fsc.org Cert no. SA-COC-001196
© 1996 Forest Stewardship Council

国産材、使って減らそうCO2。
3.9 GREENSTYLE
A-(2)-060001

CUD COLOR UNIVERSAL DESIGN

2009099800（J）A